

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正シテ差出
サザルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損
スベキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六
日以内ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セザル下キハ農商務大臣ハ既ニ
與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十
日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第四十四條 鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界者ハ位置ヲ訂正ヲ要スルトキ
ハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニ所轄
鑛山監督署ニ差出スヘシ
農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下附スヘ

シ

第四十五條 鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員
ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日
當ヲ前納セシムヘシ
鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ
之ヲ納メザルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條 鑛區ヲ合併シ又ハ分割シテ欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛
業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ採掘權ヲ
抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ
鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章 土地ノ使用
第四十七條 試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トス
ル下キハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有
鑛業條例 土地ノ使用
八十一

者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得テ若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其
測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認
可證ヲ携帶スルヲ一義ニ據ル

第四十八條 左ノ場合ニ於テ礦業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ礦業
人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコト
ヲ得テ(三十三年法律第七十四號ヲ以テ條中改正)

- 一 坑口ヲ開穿スル爲
 - 一 礦物及土石ヲ堆積場ヲ設置スル爲
 - 一 坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲
 - 一 礦業上必要トシ製鍊場其ノ他ノ建物、電線、鐵索及鐵管ヲ建設スル爲
- 第四十九條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ヲ請求ヲ拒ム
コトヲ得

一 貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ

一 土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出ササルトキ

第五十條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借
地料ヲ在拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル
地價以內ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得

其ノ償入トナシタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領ス
ルモノトス

土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ礦業人ハ之ニ對シ相
當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ヲ使用ヲ終リ其ノ使用中少借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸
渡人又ハ質取主ハ土地ヲ引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條 土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡
人又ハ質取主ハ土地ヲ引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

礦業條例 土地使用

入ノ要求ニ應シ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ

土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條 土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延

滞借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ

土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ

其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限内ニ取除ヲササルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有

ニ歸スルシ

第五十三條 礦業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘

地ノ利用ヲ害スルトキハ礦業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若シ借受人ヲ請求ス

ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ礦業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條 礦業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アル

カ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ礦業人ニ其ノ土地ノ買取

ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ礦業人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ礦業人トノ間ニ於テ土地

貸渡、借地料、保證金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキ

ハ所轄礦山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄礦山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三

十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保證金、

損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第五十六條 所轄礦山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ヲ爲シ要スル

費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條 礦業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄礦山監督署長ノ判定シ

タル借地料、保證金、損害賠償金又ハ賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地

礦業條例 土地使用

所有者又は關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章 鑛業警察

第五十八條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲ケルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

- 一 坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安
- 一 鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護
- 一 地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條 鑛業上ニ危険ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スル認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命ジ又ハ鑛業ヲ停止スルコトキハ其ノ豫防シ難キ場合ヲ除ク外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ベシ

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所

轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人鑛業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業地ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建築物等ヲ除去セシムルコトキハ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建築物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ

鑛業條例 鑛業警察

依ルハシテ...

第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ礦業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章 礦夫

第六十四條 礦夫トハ礦物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ従事スル男女以職工ヲ謂フ

礦業人ハ其ノ使役スル礦夫ノ使役規則ヲ定メ所轄礦山監督署ヲ認可ヲ受クベシ

第六十五條 礦業人ト礦夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方下モ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ヲ解約チナフコトヲ得

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ礦業人ハ何時カトモ礦夫ヲ解雇スルコトヲ得

- 一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セザルトキ
- 二 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ
- 三 前條ノ礦業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條 左ノ場合ニ於テハ礦夫ハ何時カトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

- 一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ
- 二 礦業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ

第六十八條 礦業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル礦夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フベシ

礦業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ礦夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事

第六十九條 礦業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ礦夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事

第六十九條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラ

サレバ物品ヲ以テ仕拂ヲ爲スコトヲ得ズ

第七十條 鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齢、本籍、職業、雇入及解雇

ノ年月日ヲ記入スヘシ

第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則

ヲ定ムルコトヲ得

一 一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト

一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト

一 二十歳以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十二條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則

ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

一 鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費

ヲ補給スルコト

一 前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト

一 前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ

支給スルコト

一 前項ノ負傷ニ由リ癱瘓トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコ

ト

第七章 鑛業税及鑛區税

第七十三條 鑛業人ハ鑛業税正シテ鑛業製産物ノ價格百分ノ一鑛區税トシテ鑛

區二千坪毎ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但二千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區税

額ハ之ヲ免除ス

鐵鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業税ヲ課セス

第七十四條 前條鑛業製産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商

務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場力弱モ又其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條 鑛業税ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ

鑛業條例 鑛業税及鑛區税

第六十二圓以上三十圓以下罰金ニ處ス

第六十五條 第六十四條第三項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十六條 第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者八十圓以上百圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十七條 第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ

第八十八條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ

第九十條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ

第九章 附則

得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區入リ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛

第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關シテ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條 此ノ條例ハ明治三十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二

第九十三條 明治三十二年十一月三十日以前ヨリ引續キ著鉛鑛、格魯謨鐵鑛、燐

第九十四號ヲ以テ本條追加

鑛業條例 附則

第九十五

第九十四條 前條ノ規定ニ依リ採掘ノ特許ヲ出願スル者ハ第二十二條又ハ第二十三條ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス(同上)

● 鑛業條例施行細則

(明治三十二年二月 農商務省令第三號)

明治二十七年農商務省令第六號鑛業條例施行細則左ニ通改正ス

第一條 鑛業ニ關スル願書、請求書、届書及圖面ハ二件毎ニ調製スルコトヲ要ス
第二條 鑛業ニ關スル願書又ハ其ノ添附圖面ニシテ本令ニ書式又ハ雛形ヲ定メタルモノニシテ其ノ書式又ハ雛形ニ準シテ之ヲ調製スルコトヲ要ス
第三條 鑛業ニ關スル願書、請求書及届書ニシテ登録稅法第十四條又ハ明治三十一年勅令第四號ニ規定シタル事項ニ係ルモノニハ第十二號ノ書式ニ準シ相

當ノ收入印紙ヲ貼用シタル上納書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 試掘願書及試掘地圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ニ試掘地略測圖ヲ添附シテ差出シ置キ試掘地圖ハ出願之日ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スルコトヲ要ス

第四條 鑛業條例第十二條第二項ノ規定ニ依リ鑛區圖ヲ添附セスシテ採掘願書ヲ差出スルコトキハ鑛區略測圖ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條 鑛業條例第四十七條ノ規定ニ依リ採掘測量ヲ認可スルコトキハ測量員ハ測量土地ノ地名ヲ詳記シタル請求書ヲ差出スルコトヲ要ス

前項ノ請求ニ因リ採掘測量認可證ヲ下付スルトキハ鑛山監督署長ニ於テ其ノ有效期限ヲ定メ之ニ記載スルコトヲ要ス

第六條 試掘地略測圖及鑛區略測圖ハ出願地ノ位置及區域ヲ確定スル目的ヲ以テ調製スルコトヲ要ス

鑛業條例施行細則

試掘地圖及鑛區圖ハ出願地ノ位置、境界及地形ヲ明示スル目的ヲ以テ調製ス

第七條 出願區域ハ成ルヘク方形ニ近キ形狀ニ區別スヘシ

略測圖ヲ以テ試掘又ハ採掘ヲ出願スル外キ出願地ノ各隅ト爲ルヘキ測點

ハ不動物體ヲ選定スヘシ若シ不動物體ナキトキハ近傍ニ不動物體ヲ選定シ測

點ニ對シテ關係ヲ測定スヘシ

試掘地圖ヲ以テ試掘ヲ出願スルトキ又ハ鑛區圖ヲ以テ採掘ヲ出願スルトキハ

顯著ナル不動物體ニ箇以テ成ルヘク反對ノ位置ニ選定シテ之ヲ基點ト爲シ

測點ニ對スル關係ヲ測定スヘシ若シ測點カ顯著ナル不動物體ニ符合スルトキ

係内之ヲ基點トナスヘシ

出願區域ノ各隅ト爲ルヘキ測點ニ堅固ナル標杭ヲ設置シ之ニ測點ノ番號ヲ

記載スヘシ若シ其標杭カ不動物體ニ符合スルキトキハ之ヲ設置スルニ要

セス

第八條 試掘地圖、鑛區略測圖、試掘地圖及鑛區圖ニハ左ノ事項ヲ明示ス

ハシ

一 基點及不動物體並ニ其ノ名稱、特徴

二 南北線及縮尺

三 出願地ヨリ五十間以内ニ他ノ試掘地、鑛區又ハ砂鑛採取地アルトキハ之

ト出願地トノ關係

四 出願地内又ハ其ノ附近ニ鑛業條例第二十四條又ハ第二十五條ニ定メタル

モノアルトキハ其ノモノ

五 出願地内又ハ其ノ附近ニ在ル鑛床露頭及其走向、傾斜

第九條 試掘地訂正願書又ハ鑛區訂正願書ニ添附スヘキ圖面ハ試掘地圖又ハ鑛

區圖ニ準シテ調製シ新舊區域ヲ明示スヘシ

第十條 試掘地ノ區域ハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ニ依ルヘシ

第十一條 他人ノ試掘地又ハ鑛區ニ隣接シテ試掘地又ハ鑛區ヲ得ル者ハ

鑛業條例施行細則

中間二十間以上ノ距離ヲ置キ出願スヘシ但隣接出願人ノ承諾を得タルハ

ハ試掘地ニ於テ採掘ヲ出願スルハ此ノ限ニ在ラズ

鐵業ノ監督又ハ鐵利保護ノ爲メ必要ナリト認ムルトキハ所轄鐵山監督署長ハ

前項ノ距離ヲ五十間迄延長スルコトヲ得

第十二條 試掘若ハ採掘ヲ出願スル者、鐵業特許證書換願ニ因リテ新ニ鐵業人

ト爲ルヘキ者又ハ出願人變更ニ因リテ新ニ出願人ト爲ルヘキ者二人以上ナ

ルトキハ總代一名ヲ選定シテ之ヲ願書ニ記載スルモ若シ之ヲ記載セザルモキ

ハ初筆出願人ヲ以テ總代ト看做ス

前項ノ總代ハ出願ノ取消及出願人ノ變更ヲ除ク外共同出願人ヲ代表スルモノ

トス

第十三條 會社ハ鐵業ニ關スル願書、請求書又ハ届書ヲ差出ストキハ其ノ書類

ニ社印ヲ押捺シ且會社ノ代表者之ニ署名捺印スヘシ

第十四條 試掘又ハ採掘ヲ出願シタル者ハ其ノ出願區域ノ變更ヲ出願スルコト

ヲ得ス

第十五條 採掘出願人ヲ變更セントスルトキハ新舊出願人ノ連署連印シタル願

書ヲ所轄鐵山監督署長ニ差出スヘシ

第十六條 相鄰接列ニ鐵區ヲ鐵業人ハ鐵業條例第四十四條ノ規定ニ依リ關係鐵

業區并増減シテ相互ノ境界ヲ訂正セシムルハ所轄鐵山監督署連印シタル鐵區訂正願

書ヲ改定境界ヲ圖示シタル現鐵區聯絡圖及各別ニ調製シタル訂正鐵區圖ヲ添

附テ之ヲ所轄鐵山監督署長ニ提出スルコトヲ得

第十七條 採掘權ニ對シ抵當權ヲ存スル債主ハ其ノ場合ニ於テ鐵區ノ減區訂正ヲ

出願セザルハ所轄鐵山監督署長ニ其ノ債主ヲ承諾書ヲ添附スルコトヲ得

第十八條 鐵業特許證書換願書、鐵區訂正願書、鐵區合併願書、鐵區分割願書、

採掘權書、登錄願書、採掘ノ廢業届書及鐵業條例第九十條ノ規定ニ依ル採掘

特許願書ニハ鐵業特許證書、借區券ヲ添附スルコトヲ得

第十九條 試掘願書、採掘願書、試掘地訂正願書、鐵區訂正願書、試掘延期願

書、鐵業條例施行細則

百一

書及試掘又ハ採掘ノ廢業届書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ
 前項ノ書類ヲ差出ス者ハ發送郵便局ニ於テ受付ノ年月日及時刻ヲ記載シタル
 書留郵便物受取證ヲ請置クヘシ
 第三條又ハ鑛業條例第十二條第二項ノ規定ニ依リテ願書ト同時ニ差出サザル
 試掘地圖又ハ鑛區圖及第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監
 督署長ヨリ期日ヲ指定シテ修正又ハ補充ヲ命セラレタル願書又ハ其ノ添附圖
 面ヲ差出ストキハ前二項ノ手續ニ依ルヘシ但期限ノ末日ニ差出ストキハ三日
 以内ニ書留郵便物受取證ヲ差出スヘシ
 第二十條 試掘、採掘、試掘地訂正、鑛區訂正並ニ試掘延期ノ出願日時及前條
 第三項ノ願書、圖面並ニ廢業届書ノ差出日時ハ發送郵便局ヨリ交付シタル書
 留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リテ之ヲ定ム
 前條第二項ノ受取證ノ差出ヲ命シタル場合ニ於テ其ノ指定期日迄ニ之ヲ差出
 ササルトキハ郵便物消印便ノ締切時刻ニ書類又ハ圖面ヲ差出シタルモノト看

做ス

第二十一條 鑛山監督署長カ試掘願書又ハ採掘願書ヲ受理シタルトキハ其ノ出
 願地ハ地方長官ニ其ノ願書ノ要旨ヲ通知スヘシ
 地方長官ハ出願地ノ試掘又ハ採掘ニ付キ意見アルトキハ前項ノ通知ヲ受ケ後
 第五項ヨリ五日以内ニ其ノ意見書ヲ所轄鑛山監督署長ニ送付シタルコトヲ
 第二十二條 鑛業ニ關スル願書、請求書又ハ圖面カ不完備ナルトキハ所轄鑛山
 監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ之ヲ修正又ハ補充セシムヘシ
 第二十三條 試掘又ハ採掘ノ出願區域ノ一部カ鑛業條例ニ依リテ鑛業ヲ許可スヘ
 第五項サカレモシタルトキ又ハ他人ノ試掘地若ハ鑛區ト重複スルトキハ所轄鑛山
 監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ願書及圖面ヲ修正セシムヘシ
 試掘地又
 ハ鑛區ノ訂正願書ニ付テモ亦同シ
 第二十四條 採掘出願地ニ鑛物ヲ存在シル事實ヲ認定スル爲メ必要アリト認め
 ルトキハ所轄鑛山監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ鑛床ニ關スル證明書

鑛業條例施行細則

又、礦物標品之差出サ、其日下所得之出願人モ、其標品ニ關スル期間中
 第二十五條 礦山監督署長ハ公益上豫防ノ設備ヲ命スル必要アリ認ムル所キ
 ハ期日ヲ指定シ、礦業出願人又ハ礦業人ナシテ其設備ニ關スル設計書ヲ差出サ
 認ムルコトヲ得、其設計書ハ出願人又ハ礦業人ニ送附シ、其設計書ハ其標品
 第三十六條 礦業出願人又ハ礦業人カ所轄礦山監督署長ヨリ礦業ニ關シテ書類
 又ハ圖面ノ差出ヲ命ゼ、其期日指定又ハ期日迄之ヲ差出サ、其書類又ハ
 第二十七條 礦業ニ關シ農商務大臣又ハ礦山監督署長ハ差出シタル書類、圖面
 又ハ標品ニ必要ナル認圖ハ其標品之返付セ、其書類又ハ其標品ニ關シテ
 第二十八條 礦業出願人又ハ礦業人カ所轄礦山監督署長ヨリ試掘地、礦區其ノ
 他礦業ニ關スル調査ヲ爲シ立會法命セラルトキハ指定日期日ニ立會ヲ爲
 且調査事項ニ關スル説明ヲ爲シ、立會ノ期日ハ正當ノ理由アルニ非サレ
 準ハ之ヲ變更スルコトヲ得、其期日指定又ハ其標品ニ關シテ其書類又ハ
 立會ヲ命スルニハ正當ノ理由アル場合ヲ除ク外少クとも十五日前ニ之ヲ豫告

シ、期日確定シタルトキハ少クとも三日前三之ヲ通知スルコトヲ得、其期日指定
 礦業出願人又ハ礦業人カ自ラ立會ヲ爲スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出ス
 第二十九條 礦業ニ關スル願書ヲ請求書又ハ届書カ左ノ各號ノ一ニ該當スルト
 キハ之ヲ受理セ、此ノ場合ニ於テ其ノ事由ヲ明示スルコトヲ得、其書類又ハ
 第三十條 第一項ノ規定ニ違反シ、警留郵便ヲ以テ差出ササルトキハ其書類
 二、登録稅又ハ手数料ノ上納書ヲ添附セサルトキハ其書類ハ受理セズ
 三、試掘願書ニ採掘願書ヲ試掘地前正願書又ハ礦區前正願書ニ圖面ヲ添附セ
 又ハ添附圖面ニ依リ出願シ區域分明ナラサルトキハ其書類ハ受理セズ
 第三十條 礦業ニ關スル願書又ハ請求書カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトキハ所轄
 礦山監督署長ニ於テ事由ヲ明示シテ之ヲ却下スヘシ
 三、第三條ニ定メタル期間内ニ試掘地圖ヲ差出サセ、其試掘地圖ハ其標品ニ
 二、第三十三條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リテ所轄礦山監督署長カ指定シタ
 礦業條例施行細則

- 二 期日迄ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキハ、領事官ニ報告シテ、其ノ旨ヲ
- 三 第三十四條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監督署長カ指定シタル期日迄ニ證明書又ハ標品ヲ差出ササルトキハ、
- 四 出願人カ第三十五條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監督署長カ指定シタル期日迄ニ設計書ヲ差出ササルトキハ、
- 五 出願人カ正當ノ理由ナクシテ第二十八條ノ規定ニ違反シテ並會ヲ爲ササルトキハ、
- 六 出願地調査ノ際出願人カ其ノ區域ヲ明示スルコト能ハサルトキ、其ノ指シタル區域カ願書ニ添附シタル圖面ト著ク相違スルトキ又ハ鑛物ノ存在ヲ證明スルコト能ハサルトキハ、
- 第三十一條 試掘ヲ認可スルトキハ試掘地圖ニ認可ノ番號ヲ記入シ所轄鑛山監督署ニ保存スル試掘地圖ニ契印シテ之ヲ出願人ニ下付スルハ、
- 探掘ヲ特許スルトキハ鑛區圖ニ特許ノ番號ヲ記入シ農商務省及所轄鑛山監督

- 署ニ保存スル鑛區圖ト契印シテ之ヲ鑛業特許證ニ添附シ出願人ニ下付ス
- 第三十二條 試掘又ハ探掘ヲ許可シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第三十三條 鑛業人カ第三十三條ノ規定ニ依リテ下付セラレタル圖面ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ再下付ヲ出願スルコトヲ得
- 第三十四條 鑛業條例第六條ノ總代届書ハ試掘探掘又ハ鑛業特許證書換ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スルコトヲ得
- 第三十五條 鑛業人カ前條ノ期間内ニ總代届書ヲ差出ササルトキハ第十二條第一項ニ定メタル出願又總代ヲ以テ鑛業條例第六條ノ總代届書做ス
- 第三十六條 鑛業人カ自ラ鑛業ヲ管理セザルトキハ鑛業代理人ヲ選定シ連署連印シタル届書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スルコトヲ得
- 第三十七條 鑛業代理人ハ左ノ權限ヲ委任セラレタルモノト看做ス但鑛業人カ其ノ代理權ヲ制限シ加ヘタルモノキハ鑛業代理人選定届書出下共ニ其ノ旨ヲ届出スルコトヲ得

出願スルコト、試掘礦物販賣ノ認可ヲ出願スルコト、礦業條
 其例第十條條第一項以金額ヲ納ムルニ當リ、礦業施業案ノ認可ヲ出願スルコト、
 第三坑内實測圖ヲ差出シ又六坑内實測圖ヲ證明ヲ請求スルコト、同第五十五
 同十九條條第一項出願スルコト、同第四十條ノ帳簿ヲ調製スルコト、同第五十五
 第三條條第一項及第二項條第一項條第一項條第一項條第一項條第一項條第一項條第一項
 出願スルコト、出願夫名簿ヲ調製スルコト、出願夫役規則及礦夫救恤規則ノ認可ヲ
 第三條條第一項第九十條條第一項條第一項條第一項條第一項條第一項條第一項條第一項
 第三十三條ノ規定ニ依リ採掘特許ヲ出願スルコト、同第四十二條及
 第三十四條條第一項條第一項條第一項條第一項條第一項條第一項條第一項條第一項
 第三十條所轄礦山監督署長ノ命令通知ヲ受ケルコト、及其命令ヲ執行スルコト、
 第三十八條 試掘人ハ試掘地圖ヲ採掘人ノ左ノ書類及圖面ヲ礦業事務所ニ備ヘ
 置クベシ

一 礦區圖

二 礦業施業案

第三十條 礦業條例第四十條ノ帳簿ヲ製スルニ當リ、試掘人ハ試掘地圖ヲ備ヘ置
 第三十九條 試掘延期ハ滿期前ニ出願シ且其ノ願書ニ試掘ノ成績及其ノ事業ヲ
 竣ルニ由リ詳記スルコト、
 第四十條 礦業條例第十條ノ規定ニ依リ採掘礦物ヲ販賣スルコト、試掘ノ認
 可番號、試掘地ノ地名、礦物名、數量及見積代價ヲ記載シ、認可願書ヲ差
 出シ、但試掘地ヲ以テ採掘出願シタズ、試掘以滿期及礦業ノ下
 三非付ルコトヲ認可セシム
 第四十一條 礦業施業案ハ礦業條例第三十九條ノ願書及同第四十條ノ帳簿ハ第
 四號乃至第六號ノ離形ニ準シテ之ヲ調製スルコト、
 三箇以上ノ礦區ニ付キ合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書類モ亦各合併シ
 之ヲ調製スルコト、
 礦業條例施行細則

第四十二條 礦業條例第三十九條ノ規定ニ依リ届出ツヘキ事項ナキトキハ其ノ

旨ヲ届出ツルハシ

第四十三條 礦業條例第三十九條ノ届書採掘ノ廢業又ハ採掘權讓渡ノ場合ニ

於テハ其ノ日以前三十日以内ニ之ヲ差出スルハシ但届出以外民事項ナキ事

其旨ヲ届出ツルハシ

第四十四條 坑内實測圖ハ第三號シ離形ニ準シテ調製シ毎年六月末日及十二月

末日ノ現況ヲ明示シ各八月末日及三月末日迄ニ所轄鑛山監督署長ニ差出スル

ハ但前期ニ差出シタル坑内實測圖ヲ請求シ因リ之ヲ下付スルハシ

二箇以上ノ鑛區ニ付キ合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ坑内實測圖モ亦合併シテ

之ヲ調製スルハシ

第四十五條 礦業條例第三十三條第三項ノ規定ニ依リテ坑内實測圖ノ證明ヲ得

ル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スルハシ

第四十六條 礦業條例第三十五條ノ規定ニ依リテ鑛山監督署長ノ判定ヲ請求ス

ル者ハ請求書ニ通テ作り之ニ對手人ノ氏名、住所及請求ノ理由ヲ記載シ請求

人ノ出願セントスル試掘地又ハ鑛區ノ圖面ヲ添附シテ之ヲ差出スルハシ

礦業條例第五十五條第一項ノ規定ニ依リテ鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スル者

ハ請求書及對手人ノ數ニ相當スル副本ヲ作り之ニ請求ニ關スル土地ノ種目、

番號、坪數、地價、對手人ノ氏名、住所、請求ノ事項並ニ理由、對手人ト協

議シタル事實及請求人ニ於テ仕拂ハントスル金額ヲ記載シ關係土地ノ實測圖

及工事設計書ヲ添附シテ之ヲ差出スルハシ

礦業條例第三十六條又ハ第五十五條第三項ノ規定ニ依リテ農商務大臣ノ裁定

ヲ請求スル者ハ前二項ノ規定ニ從ヒテ作りタル請求書ニ判定書ノ謄本ヲ添附

シテ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スルハシ

第四十七條 鑛山監督署長ハ前條ノ請求書ヲ受理シタルトキ之ヲ對手人ニ送

付スルハシ

對手人カ請求書ヲ送付ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ辯明書ヲ差出スルハシ

礦業條例施行細則

對手人カ前項ノ期間内ニ辯明書ヲ提出サザルハ鑛山監督署長又ハ農商務大臣ハ其ノ辯明書ノ差出ヲ待タスシテ判定又ハ裁定スルコトアルヘシ

第四十八條 相繼ニ因リテ鑛業人ト爲リタル者又ハ氏名ヲ變更シタル鑛業人ハ戶籍吏ニ届出テ其日ヨリ三十日以内ニ其證明ヲ受ケ且鑛業特許證又ハ借區券ヲ添附シテ所轄鑛山監督署長ニ届出テ其ノ訂正ヲ受ケ且證明書ノ副本ヲ添附シテ鑛業出願人カ死亡シタル者又ハ其父氏名ヲ變更シタルトシテ前項ニ準ジテ届出スル爲メニシテ之ヲ提出スルヘシ

第四十九條 會社カ鑛業出願人又ハ鑛業人タル場合ニ於テ其以社名又ハ代表者ヲ變更シ其ノ營業所ヲ移轉シ又ハ會社ヲ解散シタル者ハ十日以内ニ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出スルヘシ
第五十條 鑛業出願人又ハ鑛業人ニ命令通知ヲ要スルヨリ又ハ其場合ニ於テ其住所ガ不分明ナルトキハ十日間其ノ要旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ揭示場ニ揭示スルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ期間ノ末日ニ命令通知ヲ受ケタル者ハ下看做ス

ス

第五十一條 鑛業條例第三十條、第三十三條第二項、第三十四條第二項、第四十三條第二項若ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ行政裁判所ニ出訴シタル者又ハ同第三十四條第一項ノ規定ニ依リテ農商務大臣ニ訴願シタル者ハ七日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ツヘシ

第五十二條 鑛業條例第二十八條、第二十九條、第四十三條第一項若ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ探掘特許ヲ取消シ又ハ同第三十七條ノ規定ニ依リテ廢業ヲ届出テタル場合ニ於テ其ノ探掘權ニ對シテ抵當權ヲ有スル債主アルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ其ノ債主ニ通知スヘシ

第五十三條 試掘又ハ探掘ハ廢業届書差出ノ日時ニ於テ廢業シタルモ入ト看做ス

第五十四條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ヲ二十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
一 坑内實測圖ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルト
鑛業條例施行細則
百十三

第三十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ書類又ハ圖面ノ差出ヲ命セラレタル場合ニ於テ指定ノ期日迄ニ之ヲ差出ササルトキ

第三十八條ノ規定ニ違反シテ立會ヲ爲サス又ハ調査事項ノ説明ヲ爲ササルトキ

四 第三十八條ノ書類又ハ圖面ヲ備ヘ置カサルトキ

五 第三十六條、第四十二條、第四十三條、第四十八條、第四十九條、第五十一條、第六十條又ハ鑛業條例第三十九條ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲ササルトキ

第五十五條前條ノ規定ハ鑛業代理人及會社ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第五十六條 鑛業條例施行以前ニ差出シタル試掘願書又ハ借區願書ニシテ本令施行ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ鑛業條例ニ依レル試掘願書又ハ探掘願書

ト看做シ處分スヘシ

第五十七條 本令施行以前ニ差出シタル願書又ハ請求書ニシテ本令施行ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ本令ニ依レル願書又ハ請求書ト看做シ處分スヘシ

第五十八條 本令施行以前ニ差出シタル願書又ハ請求書ニシテ明治二十七年勅令第百號ニ定メタル手数料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタルモノハ明治三十二年勅令第四號施行ノ後ト雖モ仍ホ有效トス

第五十九條 本令施行以前ニ差出シタル區域變更願書ハ本令施行ノ後ト雖モ仍ホ有效トス

第六十條 本令施行ノトキニ於テ會社ハ鑛業出願人又ハ鑛業人タル場合ニ於テハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ代表者ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ツヘシ

第六十一條 本令施行前ノ行爲ニ付テハ其ヲ施行ノ後ト雖モ明治二十七年農商省令第六號ニ定メタル罰則ヲ適用ス

鑛業條例施行細則

第六十二條 本令ハ明治三十三年三月十日ヨリ施行ス

第六十三條 明治二十七年農商務省令第六號及明治二十九年農商務省令第七號

ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(舊式雛形略ス)

第六十四條 本令ハ其ノ施行ニ關シテ農商務省令第八號ハ農商務省令第九號

●砂鑛採取法 (明治二十六年三月四日) 法律第十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ砂鑛採取法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシメ爾後

第二條 此ノ法律ニ於テ砂鑛トハ砂金、砂錫及砂鐵ヲ謂フ

第三條 砂鑛ヲ採取セシムル者ハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ヨリ

許可ヲ受ケルニシテ本令ニ定メタル規則ニ依リテ之ヲ行フ

第三條 採取ノ事業ヲ讓渡サズル下キハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務

大臣ノ許可ヲ受ケルニシテ(二十八年法律第三十號)ヲ以テ本條追加第三條ヲ第四

條トシ以下續下ク)

共同採取人中ニ於テ除名スルトキハ其ノ人名ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ヘ

シ

第四條 帝國臣民ニ非ザレハ採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社

員トナルコトヲ得ス

採取人未成年、瘋癲、自癩又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立シテ之ヲ行フ

農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中採取人トナリ又ハ採取業ニ關ス

ル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス

第五條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルコトキハ所有者又ハ關係人ノ承諾ヲ

受ケルニシテ採取人ハ自ラ採取ヲ出願スルトキハ外前項ノ承諾ヲ拒ムコト

ヲ得ス但シ承諾ヲ與フルトキハ相當ノ砂鑛採取料ヲ要求スルコトヲ得

第六條 採取ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ其ノ出願ヲ許可セ

砂鑛採取法

第七條 採取ノ事業公益ニ害アル時ハ農商務大臣ハ既ニ與タル許可ヲ取消スルコトヲ得

第八條 採取業上ニ危険ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ採取人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ採取業ヲ停止スルコトヲ得

第九條 採取人前條ニ依リ命セラレタル豫防ヲ怠ルトキハ農商務大臣ハ既ニ與タル許可ヲ取消スルコトヲ得

第十條 採取人正當ノ理由ナクシテ一箇年以上休業シ又ハ採取ノ許可ヲ受クタル日より一箇年以内ニ採取ニ着手セザルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スルコトヲ得

スコトヲ得

第十一條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採取ノ許可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ若其ノ許可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ許可ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ許可ヲ取消シ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得

第十二條 第七條第九條第十條及第十一條ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條 採取許可取消ノ處分ヲ受ケタル採取人ハ同一區域ニ付一箇年間採取ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 左ノ場合ニ於テ採取人他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一 洗鑛ノ爲
- 一 製鍊所建設ノ爲
- 一 砂鑛採取法

一 洗滌用水路及溜池開設ノ爲

第十五條 採取人ハ使用スル土地ニ對シ其ノ土地所有者ニ相當ノ借地料ヲ仕拂

フヘシ

其ノ賃入トナリタル土地ニ對スル借地料ハ賃取主ニ於テ之ヲ受領スルモノト

ス

土地使用ニ依リ貸渡人又ハ關係人ニ損害ヲ加フルトキ採取人ハ之ニ對シ相

當ノ賠償ヲ爲スヘシ

第十六條 採取人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地所有者ハ其ノ土地ヲ取

戻スコトヲ得

第十七條 第十四條ノ場合ニ於テ採取人五箇年以上土地ヲ使用スルニキリ其ノ

土地所有者ハ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人ハ其ノ買

取ヲ拒ムコトヲ得ス

第十八條 採取人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地

ノ利用ヲ害スルトキハ土地所有者ハ採取人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借
受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 土地所有者又ハ關係人ト採取人トノ間ニ於テ土地貸渡、採取料、借

地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署

長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日

以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ採取料、借地料、損

害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第二十條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費

用ハ民事訴訟費用ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十一條 採取人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シ

タル採取料、借地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ

砂鐵採取法

土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ
置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條 許可ヲ得スシテ採取ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ許可ヲ得タル
者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此ノ法律施行以前ニ許可ヲ得タル採取人ハ此ノ法律ニ依リ引續キ
其ノ業ヲナスコトヲ得

第二十四條 砂鑛採取ノ警察其ノ他國土保安ニ關シ必要ナル規定及此ノ法律ノ
施行細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十五條 此ノ法律ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

●砂鑛採取法施行細則
明治二十二年二月一日 農商務省令第四號

明治二十七年農商務省令第七號砂鑛採取法施行細則左ノ通改正ス

砂鑛採取法施行細則

第一條 砂鑛採取ニ關スル願書及添附實測圖ハ本令ニ定メタル書式及雜形ニ準
シテ之ヲ調製スヘシ

前項ノ願書ニハ第四號ノ書式ニ準シ明治三十二年勅令第四號ニ定メタル手
料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル上納書ヲ添附スヘシ

第二條 採取區域内ノ土地方他人ノ所有ニ係ルトキハ採取願書ニ土地所有者又
ハ關係人ノ承諾書ヲ添附スヘシ若シ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由
ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ書類ヲ添附セサル採取願書ハ之ヲ受理セズ

第三條 土地所有者又ハ關係人方採取ノ出願ヲ承諾セサルモキハ所轄鑛山監督
署長ハ六十日以上ニ於テ期日ヲ指定シ其ノ土地所有者又ハ關係人ニ採取願書
ノ差出ヲ命スヘシ若シ其ノ期日迄ニ願書ヲ差出ササルトキハ出願セサルモノ
ト看做ス

砂鑛採取法施行細則

第四條 砂鐵採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局ノ消印ニ依リテ差出ノ日ヲ定ムルモノトス

第五條 鐵業條例施行細則第四十六條及第四十七條ノ規定ハ砂鐵採取法第十一條ノ規定ニ依リテ採取許可ヲ取消法請求シ又ハ同法第十九條ノ規定ニ依リテ鐵山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 採取人ハ第三號ノ雛形ニ準シテ前年中ノ砂鐵採取業明細表ヲ調製シ毎年二月末日迄ニ之ヲ所轄鐵山監督署長ニ差出スヘシ

採取人ハ廢業シ又ハ採取業ヲ讓渡シタルトキハ三十日以内ニ第三號ノ雛形ニ準シテ調製シタル明細表ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リテ明細表ヲ差出ス場合ニ於テ之ニ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第七條 採取人ハ廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鐵山監督署長ニ届出ツヘシ廢業ノ日ハ前項ノ届書差出ノ日トス

第八條 鐵業條例施行細則第十三條、第二十一條乃至第二十三條、第二十五條乃至第三十條、第三十二條及第四十八條乃至第五十條ノ規定ハ砂鐵採取ニ之ヲ準用ス

第九條 左ノ場合ニ於テハ採取人ヲ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條ノ手續ヲ爲サザルトキ

二 鐵業條例施行細則第二十五條又ハ第三十六條ノ規定ニ準シテ差出スヘキ書類又ハ圖面ヲ指定ノ期日迄ニ差出サザルトキ

三 鐵業條例施行細則第二十八條ノ規定ニ準シテ爲スヘキ立會ヲ爲サス又ハ第十調查事項ノ説明ヲ爲サザルトキ

四 鐵業條例施行細則第四十八條、第四十九條又ハ第六十條ノ規定ニ準シテ爲スヘキ届出ヲ爲サザルトキ

第十條 前條ノ規定ハ會社代表者ニ之ヲ適用ス

第十一條 本令施行以前ニ差出シタル砂鐵採取願書ハ明治三十二年勅令第四號砂鐵採取法施行細則

施行ノ後ト雖モ仍ホ有效トス

第十二條 鑛業條例施行細則第五十七條、第五十八條、第六十條及第六十一條ノ規定ハ砂鑛採取ニ之ヲ準用ス

第十三條 本令ハ明治三十三年二月十日ヨリ施行ス

第十四條 明治二十七年農商務省令第七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

● 森林法 (明治三十年四月六日) 法律第四十六號

朕帝國議會ヲ協贊テ經テ森林法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林及私有林ヲ謂フ

第二條 原野山嶽其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

第二章 營林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保綴ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ

私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第五條 前條ノ造林ヲ怠ル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其ノ箇所ニ指

森林法 總則 營林ノ監督

定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第三章 保安林

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂壞崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所
- 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
- 四 積雪、墜石ノ危険ヲ防止スルニ必要ナル箇所
- 五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所
- 六 魚附ニ必要ナル箇所
- 七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所
- 八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所
- 九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第九條 保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

第十條 保安林ノ編入解除ハ府縣都市町村其ノ他直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ

第十二條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ開會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ森林ノ所有者並大林區署土木監督署ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ揭示スヘシ

第十三條 保安林ニ編入ノ爲地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採、土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

森林法 保安林

第十四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通達スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示若ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セズ又ハ第二十二條ニ依リ指令シタル事項ヲ實施セサル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徴收スルコトヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木ヲ禁止セラレタル場合ニ於テ直接ノ損害ニ限リ補償ヲ求ムルコトヲ得但シ

森林法 保安林

御料林、國有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス

前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府

之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以内ヲ補

助スルコトヲ得

損害ノ算定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサルトキ

ハ地方森林會ヲシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタ

ル日ヨリ九十日以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免

ス

第三十條 從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安

林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産物ニ使用スル記號又ハ

印章ヲ所轄警察署ニ届置カベシ

警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手帳帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察

官吏ノ検査アルトキ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得テ森林内ニ火入ヲ爲スコト

ヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ

設備ヲ爲スヘシ

第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ蟲害アルヲ發見シタル者及森林

ニ關スル罪ヲ犯シ若シ犯罪トスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏

森林法 森林警察

警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スルハシテ

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ二圓以上

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贖額二倍

以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贖額以下ニ下スコ

得ズ

一 根株ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ヲ湮滅シタル者

二 贖物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルト

三 贖物ヲ燃料トシテ贖物ノ採取精製若ハ石灰、煉化石、瓦其ノ他ノ物品ノ

製造ニ使用シタルトキ

四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ

五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九 差押ノ贖物ヲ隱匿若ハ消費シタルトキ

第三十九條 森林竊盜ノ贖物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保

夫爲シタル者ハ二圓以上贖額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ

處ス但シ罰金ハ贖額以下ニ下スコトヲ得ズ

第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五十圓以

下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主産物ヲ燒燬シタ

森林法 罰則

百三十五

第三處六
第四十二條 濫ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條ニ適用ス

第四十四條 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印跡ヲ變更若ハ消除シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得ズシテ森林ヲ開墾シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以下ノ拘留又ハ重禁錮ニ處ス
他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 第三十三條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上ノ科料ニ處ス

第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ適用ス

第六章 雜則
第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目轉換ヲ包含ス

森林法 雜則
百三十七

第五十三條 森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦、樟腦油、糖
其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス

第五十四條 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅念納處分法ニ依リ徵收スル
コトヲ得

第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スル
モノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命ズルコトヲ得其ノ造林ヲ怠ル場合
ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス

第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限リ
翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得
原野山嶽又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル
第五十七條 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安
林ニ關スル規程ニ限リ此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ編入解除ニ關スル手續

ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

●森林法施行細則 (明治三十年十二月十四日) 農商務省令第十九號

森林法施行細則左ノ通相定ム

森林法施行細則

第一條 府縣知事ニ於テ公有林、社寺林及私有林ニ付森林法第三條、第四條及

第五十五條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ處分ノ上農商務大臣ニ届出ヘシ (三
十四年農商務省令第二號ヲ以テ全條改正)

府縣知事ニ於テ森林法第七條、第二十一條乃至第二十三條ノ命令ヲ必要ト認
ムルトキ及前項規定以外ノ森林ニ付第五十五條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ
農商務大臣ニ具申シテ指揮ヲ請フヘシ

府縣知事森林法第五條、第二十四條及第五十五條ニ依リ政府ニ於テ造林執行

森林法施行細則

必要アルモノト認メタルトキハ實地調査ノ上別記様式ニ依リ造林事業豫算書ヲ調製シテ農商務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ
前項ノ場合ニ於テハ費用ノ徴收若クハ部分林トナスニ付テハ意見ヲ具申ス

第二條 保安林編入ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ保安林編入調査及圖面ヲ添付シテ送付スルモノトシ

保安林編入調査ノ様式ハ府縣知事ニ付定ム

第三條 保安林解除ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ解除ヲ要スル理由ヲ記載ス

但保安林幾部ヲ解除スルニ係ル場合保安林ノ全部及解除後ノキ部分ヲ明示シタル圖面ヲ添付シ之ニ其解除スヘキ保安林ノ面積ヲ附記スヘシ

第三條之二 保安林解除ノ申請アリタルトキ又ハ編入ノ原因消滅シタリト認メタル場合ニ於テ更ニ他ノ原因ニ依リ保安林編入ノ申請アルカ又ハ編入ノ必要

アリト認メタルトキハ府縣知事ハ同時ニ解除及編入ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ(三十五年農商務省令第十八號ヲ以テ追加)

第四條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ若クハ保安林編入解除ニ就キ申請又ハ通知ヲ受ケタルモノニシテ其編入解除ニ就キ二府縣以上ノ利害ニ關係アルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通知スヘシ

第五條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ニ付地方森林會ノ答申書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ具シ關係書類ヲ添付シテ三十日以内ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第六條 農商務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ決定シタルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通告シ府縣知事ハ十日以内ニ府縣公報ヲ以テ其旨ヲ告示シ森林所在地ノ市町村役場ニ揭示シ且ツ其旨ヲ森林所有者ニ通告スヘシ但編入ニ付テハ保安林編入調査ノ中施業法要領ヲ通告書ニ添付スヘシ(三十四年農商務省令

第二號及三十五年第十八號ヲ以テ條中改正)
森林法施行細則
百四十一

第七條 府縣知事ハ保安林ヲ買上ケルノ必要アリト認ムルトキハ農商務大臣ノ
指揮ヲ受ケ森林所有者ト協議シテ其買上價格ヲ定ムヘシ

第八條 保安林ノ買上價格又ハ補償金額ニ付協議整ハサル場合ニ於テハ森林法

第二十七條ニ依リ府縣知事ハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ附シ其評決シタル買上

價格又ハ補償金額ヲ關係者ニ通達スヘシ

第九條 保安林損害ノ補償若クハ其補償ノ補助ヲ受ケントスル者ハ其金額ヲ定

メ算定理由ヲ詳述シタル請求書ヲ府縣知事ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘ

第十條 森林法第三十一條ニ依リ届書ハ其記號ノ形状並ニ印影ヲ添付シタル書

面ヲ作業地營業地ノ所轄警察署ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察署ハ所管小林區署ニ通知スヘシ

第十一條 森林内ニ火入ヲ爲スノ許可ヲ得ントスル者ハ豫メ期日ヲ定メ森林官

若クハ警察署ニ申出ツヘシ但火入ヲ爲サントスル森林ノ全部又ハ一部カ他入

ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ願書ニ添附スヘ
シ(三十四年農商務省令第二號ヲ以テ改正)

前項ノ場合ニ於テ火入ヲ許可シタルトキハ別記火入許可證ヲ交付スヘシ

第十二條 森林内火入ノ當日ハ火入者ニ於テ前條ノ火入許可證ヲ現場ニ携帶ス

ヘシ

第十三條 同森林内又ハ森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ火入期日

前ニ火入箇所鄰接地ノ所有者若クハ管理者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第十四條 火入ノ場合ニ於テ他ニ延燒ノ虞アリト認メタルトキハ森林官又ハ警

察官ハ其火入ヲ差止メ火入方法又ハ火入期日ヲ改メシメ若クハ相當ノ設備ヲ

爲サシムヘシ

(火入許可證略ス)

● 國有林野法

(明治三十二年三月二十二日
法律第八十五號)

國有林野法

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國有林野法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野法

第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要

アルモノハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要

アルトキ及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之ヲ組換
ヲ爲スコトヲ得
組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スルニ必要
アルモノハ更ニ國有林野ニ編入スルニ付テハ該土地ノ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編
入スルコトヲ得

第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ鄰接地所有者ニ
通告シテ其ノ立會ヲ求メ施行スヘシ

鄰接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルハ當該官廳ハ境界査定ヲ施
行スルコトヲ得

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ鄰接地所有者ニ
通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採ス
ルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ヲ欠クシテ之ヲ拒
ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第七條 鄰接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨ
リ六十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得
一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

國有林野法

二 市町村又は公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ

三 神社寺土地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フニキ

四 命令以テ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フト

五 民有地ノ道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ

六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ

七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲メ貸付シタル林野又ハ第九條第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ

第九條 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂ノ豫約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依リ賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲メ必要アルトキ

二 牧畜又ハ植樹ノ爲メ必要アルトキ

三 牛馬放牧ノ爲メ使用セシムルトキ

四 第九條ニ依リ開墾者ノ爲ニスルトキ

五 箇年貸付料三百圓ヲ超エザル限リ

第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徴收スルコトヲ得

第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超スルコトヲ得

一 植樹ノ場合ニ於テハ六十年

二 家屋、倉庫其ノ他ノ建設物ノ場合ニ於テハ三十年
三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年

第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限リ國有林野又ハ
立木竹ノ他ノ同價格以上ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ノ交換ノ價額ヲ
得 國有林野ノ管理又ハ其ノ他ノ事項ニ關シテハ國有林野法ニ依リテ
第十五條 國有林野ノ左ノ場合ニ限リ讓與スルコトヲ得
一 段則一町歩以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ
二 府縣郡市町村及其他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、
溝渠、池池、火葬場、墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ

第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使
用セザルトキ又ハ一旦其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期
間其ノ使用ヲ繼續セザルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第
三者ノ權利ハ消滅ス

第十七條 社寺土地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムル場合ニ限リ其ノ管理期間
社寺ノ勅令ヲ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコト
ヲ得 其ノ管理期間ハ帝國議會ニ辯告スル時ニ從テ之ヲ定ムルハ四十年
第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村內
第一節ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得 賦課金及林野ノ管理費ニ關シテハ
前項ノ場合ニ於テハ其ノ委託者ニ林野產物ノ讓與又ハ其ノ管理ヲ得
委託ノ方法及受託者ニ關シテハ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム

第十九條 國有林野ノ造林者ハ其ノ收益ヲ分收スル協定契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ
設クル時ニ其ノ協定書、樹木ノ圃ニ造林者ノ共同書又ハ其ノ協定書、收益分配ノ協定
書及協定書又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前
國有林野法

第三十條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ割合ニ均等者トシ部分林設定前存存シタル樹木ハ國ト所有者トシ之ノ利益ハ前項ノ期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十一條 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十二條 部分林ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第三十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第三十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ヲ現在スル國有林野現
在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年
三月三十一日ノ現在ニ依リテ之ヲ編製スル事トシ又主務大臣ハ其ノ年三月三十一日
第三十五條 主務大臣ハ毎會計年度間ニ於テ國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開
會ニ帝國議會ニ報告スヘシ

第二十六條 此ノ法律ハ北海道及沖繩縣ニ施行セス

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●農會法 (明治三十二年六月八日) 法律 第三百三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農會法ヲ裁可シ茲之ヲ公布セシムルニ依リテ其ノ施行期日ハ
第一條 農會ハ農事ノ改良發達ヲ計ル爲メニ設立スルモノトス

第二條 農會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 農商務大臣ハ其ノ定ムル所ノ條件ヲ具備スル農會ニ補助金ヲ交付スル
コトヲ得

第四條 農會ニ補助スル金額ハ北海道又ハ一府縣ヲ通シテ一箇年四千圓ヲ超ユ
ルコトヲ得ス

第五條 農會補助ノ爲メ國庫ヨリ支出スル金額ハ一箇年十五萬圓ヲ超ユルコト
農會法 百五十二

北海道、沖繩縣、小笠原島及伊豆七島ニ於テハ前項第二號ノ條件ヲ要セス

第五條 郡農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ町村及町村組合總數ノ三分ノ二以上タルコトヲ要ス

府縣農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ郡市總數ノ二分

ノ一以上タルコトヲ要ス

北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スル農會ノ數ハ農商務大臣之ヲ

第六條 北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ農會ニ在リテ

ハ地方長官ニ於テ必要ト認ムル時ハ農會ニ加入セサル時ニ對シ之ヲ加入

ヲ命ズルコトヲ得但シ第四條又ハ第五條ニ定メタル要件ヲ闕キタル場合ハ此

ノ限ニ在ラズ

第七條 農會ノ設立者ハ會則ヲ定メ市町村農會ニ在リテハ五名以上ノ委員、其

ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ會長ヨリ之ヲ行政廳ニ差出シ農會

設立ノ認可ヲ受ケヘシムル事ニ關シハ前項ノ規定ニ依リテ其ノ會則ノ

第八條 會則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名称ヲ稱スル事

二 宗旨及業務ノ範圍

三 會務所及事務ノ執行

四 役員ノ職務權限、選任及任期ニ關スル規定

五 會費ニ關スル規定

六 會費ノ分賦收入ニ關スル規定

七 財產ニ關スル規定

八 遺務及會計ニ關スル規定

九 加入會及退會ニ關スル規定

十 解散ニ關スル規定

會則ノ變更ハ行政廳ヲ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セズ

第九條 郡農會ハ北海道農會又ハ府縣農會ヲ設立シタルトキハ之カ會議ニ參列

セシムル爲其ノ農會ヲ組織スル農會ニ於テ三名以内ノ代表者ヲ選舉スヘシ

第十條 農會ハ農事ニ功勞アル者又ハ農事ニ關シ學識經驗アル者ヲ名譽會員ト

爲スルコトヲ得

名譽會員ハ議決權ヲ有セス

第十一條 農會ハ會長及副會長各一名ヲ置クヘシ會長ハ會務ヲ總理シ會ヲ代表

以

副會長ハ會長ノ事務ヲ補助シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第十二條 會長及副會長ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中ヨリ其ノ他ノ農會

ニ在リテハ第九條ノ代表者中ヨリ之ヲ互選ス但シ名譽會員中ヨリ之ヲ選舉ス

限ルコトヲ妨ケス

第十三條 農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ農

會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔トス

第十四條 農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十五條 農會ノ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ハ毎年之ヲ議決シ二月末日迄ニ

行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 農會ハ毎年六月三十日迄ニ前年度ノ經費ノ決算及會務ノ狀況ヲ會員

又ハ農會ニ公示シ且之ヲ行政廳ニ報告スヘシ

第十七條 農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農事ニ關スル報告書ヲ作り之ヲ地方長

官ニ差出スヘシ

第十八條 農會ハ農事ノ改良發達ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ

得

農會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スルコトヲ得

第十九條 行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ農會ノ會務ノ狀況若シ帳簿ヲ檢査

爲シ又ハ農會ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ若シ處分ヲ行フコトヲ得

農會令

第三十條 農會之決議又其ノ役員ノ行爲が法令若ハ會則ニ違背スルトキ又ハ
公益ヲ害スルハ或アリ認ムルトキハ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商
務大臣其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
一 決議ノ取消
二 役員ノ解職
三 事業ノ停止

第四十條 解散農會ハ命令ノ依リテ解散スルニ當リ其ノ遺留ノ事務ハ其ノ役員
ニ委シテ之ヲ了スルコトヲ得

第二十二條 農會ニ於テ解散ヲ議決シ如シキ其ノ事由ヲ其ノ行政廳ノ認可
ヲ要スルハ其ノ要件ハ左ノ如シ
一 前項ノ規定ニ依リテ解散シタル農會ノ會員ハ解散ト同時ニ各
其ノ所屬町村ノ區域ニ依リテ農會ヲ設立シタルモノト看做ス但シ第四條ノ條
件ヲ具備セザルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上)

前項ノ場合ニ於テハ郡長ハ假ニ會則ヲ定メ假役員ヲ選任シテ役員ヲ選任アル
送會務ヲ處理セシムヘシ

第三十二條ノ四ノ前條ニ依リテ設立シタル農會ハ會則ヲ議決シ設立ノ時其ノ二
箇月以内ニ郡長ノ認可ヲ申請スヘシ(同上)

第三十二條ノ五ノ農會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存續ス

農會令
百五十九

消滅シタルトキハ郡長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ(二十五年勅令第二百二十九號
ヲ以テ追加)

農會ハ前項ノ取消ニ因リテ解散スルニ當リ其ノ遺留ノ事務ハ其ノ役員
ニ委シテ之ヲ了スルコトヲ得

第二十二條ノ三ノ前條ノ規定ニ依リテ解散シタル農會ノ會員ハ解散ト同時ニ各
其ノ所屬町村ノ區域ニ依リテ農會ヲ設立シタルモノト看做ス但シ第四條ノ條
件ヲ具備セザルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上)

前項ノ場合ニ於テハ郡長ハ假ニ會則ヲ定メ假役員ヲ選任シテ役員ヲ選任アル
送會務ヲ處理セシムヘシ

第三十二條ノ四ノ前條ニ依リテ設立シタル農會ハ會則ヲ議決シ設立ノ時其ノ二
箇月以内ニ郡長ノ認可ヲ申請スヘシ(同上)

第三十二條ノ五ノ農會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存續ス

第三十二條ノ六、農會解散シタルトキハ會長及副會長其ノ清算人ト爲ル但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ決議ヲ以テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ(同上)

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者カキトキハ行政廳清算人ヲ選任ス清算人關ケタルトキ亦同シ

第三十二條ノ七、清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メテ行政廳ノ認可ヲ受ケルベシ(同上)

清算人ハ農會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス第三十三條ノ八、行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算及財産處分方法ノ變更又ハ清算人ノ解職ヲ命スルコトヲ得(同上)

第三十二條ノ九、清算ヲ終了シタルトキハ清算人ハ農會ニ屬スル帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ行政廳ニ届出ツベシ(同上)

第二十三條 第七條、第八條第二項、第十五條、第十六條、第二十一條、第二十二條ノ六第二項、第二十二條ノ七第一項、第二十二條ノ八、第二十二條ノ九及第二十六條ノ行政廳ハ町村農會ニ在リテハ郡長トシ市農會及郡農會ニ在リテハ地方長官トシ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣トス(同上) 勅令ヲ以テ本條中追加)

附則

第二十四條 本令ハ農會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 本令中郡トアルハ伊豆七島及島司ヲ置キタル島嶼、市トアルハ北海道沖繩縣ノ區、町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル町村ニ準スベキ地ヲ包含ス

本令ノ規定ニ依リ郡長ノ行フベキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第二十六條 本令施行前ニ設立シタル農會ニシテ第四條又ハ第五條ニ定メタル農會令

要件ヲ具ヘ其ノ他本令ノ規定ニ牴觸セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ六箇月以
内ニ行政廳ノ認可ヲ受ケ本令ニ依リテ設立シタル農會ト看做スコトヲ得
前項ノ認可ヲ申請シタル農會ニシテ第一條ニ掲ケタル名稱ヲ有スルモノハ其
ノ認可アル迄仍從前ノ名稱ヲ繼續スルコトヲ得

●農會令施行規則 (明治三十三年三月十七日)

農會令施行規則左ノ通相定ム

農會令施行規則

- 第一條 農會設立ノ認可申請書ニハ農會令第四條又ハ第五條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
- 第二條 役員ノ選任又ハ變更アリタルトキハ遲滯ナク其氏名ヲ行政廳ニ届出ヘシ
- 第三條 農會設立ノ認可アリタルトキハ遲滯ナク經費ノ豫算及分賦收入ノ方法

ヲ議決シ行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第四條 農會ノ設立又ハ解散アリタルトキハ郡長ハ地方長官ニ、地方長官ハ農務大臣ニ其旨ヲ報告スヘシ

第五條 地方長官農會令第二十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ直チニ其事由ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第六條 農會令第二十六條第一項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其申請書ニ會則及經費ノ豫算並分賦收入ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第七條 農會ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

●産業組合法 (明治三十三年三月六日)

法律第三十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル産業組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

産業組合法

農會令施行規則 産業組合法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル
爲左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ

一 組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及時金ノ便宜ヲ得セシムルコト
(信用組合)

二 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セシメテ之ヲ賣却スルコト(販
賣組合)

三 産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト(購買
組合)

四 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使
用セシムルコト(生産組合)

前項第一號ニ掲ケタル事業、他ノ各號ニ掲ケタル事業ト相兼ズルコトヲ得
ス

第二條 産業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス

無限責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場
合ニ於テ組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ、有限責任組合ニ在リテハ

組合員ノ全員カ其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ、保證責任組合ニ在リ
テハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全
員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第三條 産業組合ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條 産業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スヘキ文字ヲ用ツヘシ
産業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ヅル
コトヲ得ス

第五條 産業組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法
中商人ニ關スル規定ヲ適用ス

第六條 産業組合ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

産業組合法 總則

産業組合ニシテ登記ヲ受クルトキハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録税ヲ納ムヘシ但シ組合員名簿ノ記載ニ付テハ登録税ヲ課セス

第二章 設立

第七條 産業組合ハ七人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條 組合ノ設立者ハ定款ヲ作り之ヲ主タル事務所所在地ノ地方長官ニ差出シ設立ノ許可ヲ請フヘシ

第九條 定款ニハ本法ニ規定アルモノヲ除ク外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

一 目的

二 名稱

三 組織

四 事務所

五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

六 第一回拂込ノ金額

七 剰餘金及損失分配ニ關スル規定

八 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九 組合員タル資格ニ關スル規定

十 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

十一 組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

信用組合ノ區域ハ市町村ノ區域以内ニ於テ之ヲ定メ定款中ニ記載スヘシ但

シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ

得

第十條 産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十一條 出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第十二條 組合力其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク各組合員ヲシテ第

産業組合法 設立

一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十三條 前條ノ拂込アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條 登記スヘキ事項左ノ如シ

- 一 第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ掲ケタル事項
- 二 設立許可ノ年月日
- 三 理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條 組合ハ其ノ設立ノ登記ヲ申請ト共ニ組合員名簿ヲ其ノ主タル事務所所在地ノ裁判所ニ差出スヘシ

組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 各組合員ノ氏名、住所

二 各組合員ノ出資口數

三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日

四 出資各口ノ取得ノ年月日

五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

第十四條第二項ノ規定ハ組合員名簿ノ記載ニ之ヲ準用ス
裁判所ニ差出シタル組合員名簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第十六條 民法第四十五條第二項、第三項、第四十七條及第四十八條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一週間トアルチ二週間トス

第三章 組合員ノ權利義務

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ十口ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコト
産業組合法 組合員ノ權利義務

トヲ得ス

百七十六

第十九條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

ス

組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

第二十條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十二條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務

ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十三條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招
集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ
得

第二十四條 組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款

ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ地方長官

ニ請求スルコトヲ得

第四章 管理

第二十五條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事
及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段
ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ
得

第二十八條 理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權
ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラ
ス

第二十九條 理事ハ定款及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ

産業組合法 管理

百七十一

主タル事務所ニ備ヘ置ケルシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十二條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十三條 監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十四條 民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十五條 組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理

事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ

第三十六條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定ムル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ之テ之ヲ爲ス

第三十七條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十八條 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス

第三十九條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第四十條 組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フ
ヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十一條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサ
リシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供ス
ルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十二條 前三條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合
ニ之ヲ準用ス

第四十三條 組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ
拂込ニ充ツヘシ

第四十四條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコトヲ
得ス

組合員ノ持分ニ對スル剩餘金分配ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得
ス

第四十六條 組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩
餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十七條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十八條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコ
トヲ得ス

第五章 加入及脱退

第四十九條 無限責任組合ニ加入セムトスル者ハ總組合員ノ同意ヲ得ルコトヲ
要ス

第五十條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否トナ間ハス組合員ハ事業
年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ

産業組合法 加入及脱退

ヲ得ス

第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

一 組合員タル資格ノ喪失

二 死亡

三 破産

四 禁治産

五 除名

第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サル

ハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ適用ス

第五十三條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一

部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 脱退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脱退ヲ組合員名簿ニ記載シタル事

業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム

第五十五條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間に履行ハサルニ因リテ消滅

ス

第五十六條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ

足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘ

シ

第五十七條 脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ

持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シタル組合員ハ脱退

前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脱退ヲ組合員名簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ

負擔ス

産業組合法 加入及脱退

前二項ノ規定ハ特別ノ契約ヲ以テ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ妨ケス

前二項ノ規定ヲ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

第五十九條 産業組合ハ主務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

第六十條 監督官廳ハ何時ニテモ理事ヲシテ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシ

メ又ハ組合ノ事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ

行フ

第六十二條 組合ノ事業及ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ヲ繼續ヲ困難ナラ

下認ムルトキ又ハ組合ノ行爲カ定款若ハ法令ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スルノ

虞アリキハ主務大臣又ハ地方長官ハ總會ヲ決議テ取消シ、理事、監事若ハ

清算人ヲ改選テ命シテ組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ得

第六十二條 解散

第六十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 定款ニ定メタル事由ノ發生

二 總會ノ決議

三 組合ノ合併

四 組合員九七人未滿ニ減シタル由キ

五 組合ノ破産

第六十三條 組合ハ解散及合併ノ決議ニシテ準用ス但シ無限責任組合ノ合併

ニ付テハ總會員ノ同意アルコトヲ要ス

第六十三條 組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除ケル外三週間内ニ

各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲ス

第六十四條 第四十條及第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 合併ハ地方長官ノ認可ヲ受ケルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼス

第六十六條 組合カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ

合併後存續スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ且合併ニ因リテ消滅シタル組

産業組合法 監督 解散

百七十九

合併ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スベシ

第六十七條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因

テ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承継ス

第六十八條 組合ノ總組合員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更スルコトヲ得

第六十九條 民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第七十一條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借

對照表ヲ作ル之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スル

第七十三條 清算事務ヲ終リタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之

ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十四條 清算人ノ解任アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ

其ノ登記簿ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ提出シ

第七十五條 民法第七十三條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準

用ス但シ同規定中一週間トアルハ二週間トス

第九章 罰則

第七十六條 組合ノ理事又ハ監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以上三百圓以

下ノ過料ニ處セラル

一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一

項ノ規定ニ違反シタルトキ

産業組合法 清算 罰則

百八十二

申請書ニハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且地方長官ノ認可ヲ要スル
モノニ付テハ其ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ
前二項ノ規定ハ組合員名簿ノ記載ノ申請ニ之ヲ準用ス

第八十三條 出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ノ減少ノ登記ノ申請書ニハ左ノ
書類ヲ添附スヘシ

一 地方長官ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本

二 第四十條第二項ニ依ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ベタル債權者

第八十條ノ執行ノ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第八十四條 組合ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且組合カ總會

決議ニ因リテ解散シタルコトハ總會ノ決議録ヲ添附スヘシ

第八十五條 合併ニ因リ解散シテ登記ノ申請書ニハ第八十三條ニ掲ケタル書面ヲ

添附スヘシ

登記ヲ爲スヘシ

第八十六條 第八十一條第一項ノ規定ハ出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ノ減

少、組合ノ解散及組合ノ合併ニ因リ變更、設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス

場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滞ナク之ヲ公告スヘ

シ但シ組合員名簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條 非訟事件手續法第三百三十六條乃至第三百三十八條、第四百一條乃

至第五百一十一條、第五百五十四條乃至第五百五十八條、第六十三條乃至第六十

五條及第七十五條乃至第七十七條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第八十九條 本法ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府

知事、北海道ニ於テハ支廳長、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長、島司ヲ置キタル島

嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第九十條 北海道ニ於ケル産業組合ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコ

ト

●産業組合法施行規則

(明治三十三年七月三日) (農商務省令第十六號)

産業組合法施行規則左ノ通相定ム

- 第一條 産業組合法施行規則 第一條ノ出資一圓ノ金額ハ五十圓ヲ超スルコトヲ得ズ但特別ノ理由アリキハ此限ニ在ラズ
- 第二條 第一回拂込メシ金額ハ出資一圓ノ金額ノ十分分一以下ノコトヲ得ズ
- 第三條 準備金シテ額ハ出資總額ノ十分分一以下ヲ得ズ
- 第四條 組合法斷ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收スルトキハ其金額ハ之ヲ準備金ニ組込ムル如ク時限ニ設ケテ引取ル組員ニ對シ其持分ノ一部ヲ拂戻シ得キ
- 第五條 理事及ヒ監事ハ定款ノ規定又ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報

酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ズ
 第六條 組合法ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但特別ノ理由アルトキハ此限ニ在ラス
 第七條 理事ハ總會ヲ承認シ經營シ後遲滞ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲
 示スル書類ヲ地方長官ニ提出シ且シ要スル書類ハ提出スル由シ
 第八條 組合法ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 組合法ノ數及ヒ出資口數ノ變動
- 二 出資拂込メシ總額及ヒ剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込メシテタルトキハ其總額
- 三 借入金及ヒ其償還
- 四 準備金及ヒ各種ノ積立金
- 五 總會ノ決議
- 六 事業ノ狀況
- 七 信用組合ニ在リテハ貸付シテ受ケタル金額、受入又ハ拂戻シタル貯金額及ヒ貯金並ニ貸付金ノ利率其他ノ組合ニ在リテハ販賣、購買又

八 組合員ノ職業別ノ數及ヒ出資口數
九 保證責任組合ニ在リテハ保證金額
十 職務ノ要件

第九條 理事ハ毎年總會ヲ決議テ左ノ事項ヲ地方長官ニ報告スルコトヲ要ス

一 前年度ニ於テ借入ルルコトヲ得ヘキ最高金額
二 信用組合ニ在リテハ前年度ニ於テ一組合員ニ貸付スルコトヲ得ヘキ最高金額

第十條 出資口數ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議録、財産目録及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第十一條 持分ニ對シテ剩餘金分配ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 合併ノ認可申請書ニハ第十條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及ヒ合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

第十三條 組織變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員ノ責任ヲ減少スルコトキハ尙ホ第十條ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第十四條 郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハントスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フコトヲ要ス

第十五條 地方長官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直チニ其旨ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十六條 組合カ産業組合法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ地方長官ニ届出ルコトヲ要ス但組合員名簿

産業組合法施行規則

二爲シテ此限ニ在ラズニシテ...
第二十七條 組合ニ加地方長官ニ差出スルキ書類ハ郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フベキ者ヲ經由スルコトヲ要ス

附則...
第二十八條 本則ハ産業組合法施行ノ日ヨリ施行スルニ依リテ...
第二十九條 本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セズ

●産業組合登記取扱手續 (明治三十三年七月二十三日 司法省令第二十九號)

産業組合登記取扱手續左ノ通相定メテ...
第十三條 産業組合登記取扱手續...
第一條 産業組合登記簿ハ附録第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製ス

第二條 産業組合登記簿見出帳ハ附録第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條 産業組合員登記簿ハ各組合毎ニ別冊ト爲シ附録第三號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 登記所ニハ登記簿、組合員名簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備ス

一 申請書囑託書附屬書類送込帳 (三十五年司法省令第十九號ヲ以テ改正)

二 受領證原符元帳

三 決定原本送込帳

四 登記簿原本送込帳

五 登記簿送込帳

六 登記簿送付帳

七 抗告書類送込帳

八 印鑑簿

第四條ノ二 前條第一號乃至第七號ノ帳簿ハ一年毎ニ別冊ト爲スヘシ(三十
五年司法省令第十九號ヲ以テ追加)

第五條 登記所ニ差出スヘキ組合員名簿ハ厚紙ノ表紙ヲ附シ其表面ニ何々ノ組合
員名簿ト記載シ裏面ニ枚數ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ
組合員名簿ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ
前二項ノ場合ニ於テ理事又ハ監事カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契
印ヲ以テ足ル

第六條 組合員名簿カ三冊以上ナルトキハ申請人ハ各冊ノ表紙ニ其冊數ヲ記載
スヘシ

第七條 組合員名簿ノ記載ノ變更ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其申請書ニ變更シ
タル事項ノ記載アル用紙ヲ編綴セル組合員名簿ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載スヘ
キ事ヲ規定スルニ依リて産業組合法第十六條ノ規定ニ
第八條 組合カ其事務所ヲ移轉シタル場合ニ於テ産業組合法第十六條ノ規定ニ

依リ第十四條第一項ニ定メタル登記ヲ爲シタルトキ又ハ第六十六條ノ規定ニ
依リ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中豫備欄ニ其事由ヲ記載スヘシ

第九條 登記官吏カ登記ヲ爲シタルトキハ組合員名簿ノ表紙ニ登記番號及受附
ノ年月日ヲ受附番號及ヒ登記所該名稱ヲ記載スヘシ
第十條 組合員名簿ノ記載ノ變更ヲ申請アリタルトキハ組合員登記簿ノ登記用
紙中番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左
側ニ變更シタル事項ヲ記載アル組合員名簿ノ冊數及ヒ丁數ヲ記載シ相當欄ニ
産業組合法第十五條第三項ノ規定ニ依リ組合員名簿ニ記載シタル事項ヲ移シ
タル上變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ組合員名簿中相當部分ノ餘白ニ組合員登記簿第
何冊第何丁ニ移シタル旨及ヒ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス
第十一條 組合員ノ加入ニ因リ組合員名簿ノ記載ノ變更ノ申請アリタルトキハ
組合員登記簿ノ登記用紙中番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新
産業組合登記取扱手續
百九十三

ナル番號ヲ記載シ相當欄ニ産業組合法第十五條第二項ニ掲ケタル事項ヲ登記
スルベシ

第十條 組合員ノ脱退ニ因リ組合員名簿ニ記載シ變更ヲ申請スリタルトキハ
組合員名簿中相當部分ノ餘白ニ其登記ヲ爲シ脱退シタル組合員ノ氏名ヲ抹
スルベシ

若シ其組合員カ組合員登記簿ニ登記セラレタル者ナルトキハ組合員登記簿ノ
登記用紙中變更欄ニ脱退シ登記ヲ爲シ登記番號及ヒ其組合員ノ氏名ヲ抹
スルベシ

第十三條 組合員登記簿ノ登記用紙中或欄カ登記ヲ爲スルニ餘白ナキニ至
ルトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其左側ニ第三ノ文字、前番號ノ用紙
ヲ編綴セル組合員登記簿ノ冊數、丁數及ヒ其繼續用紙ナルトキハ前番號ノ用紙
ノ氏名、住所欄ニ組合員ノ氏名、住所ヲ移シ左側ニ登記ヲ爲スルベシ
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字並ニ繼續用紙

ヲ編綴セル組合員登記簿ノ冊數、丁數及ヒ之ニ繼續スル旨ヲ記載スルベシ
前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 不動産登記法施行細則第四條、第五條、第十二條、第二十條乃至第
二十四條、第二十七條、第三十三條乃至第三十九條、第四十七條、第五十一
條及ヒ商業登記取扱手續第五條乃至第七條、第九條乃至第三十條、第二十三
條乃至第三十三條、第四十四條、第四十六條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ
準用ス

附則

受附番號ハ明治三十三年分ニ限リ十二月三十一日ニ止ムベシ

(附録離形略之) 照合簿並ニ出納簿

●産業組合登記簿ノ謄本、抄本等ノ手数料ノ件

明治三十三年七月二十三日
司法省令第三十三號

産業組合登記簿ノ謄本、抄本等ノ手数料ノ件 百九十五

産業組合登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ノ請求等ニ關スル手数料ニ付テハ明治三十二年司法省令第十四號第一條及ヒ第三條乃至第六條ノ規定ヲ準用ス

●産業組合登記取扱場所 (明治三十三年七月十四日) (司法省令第二十四號)

産業組合ニ關スル登記ノ事務ハ商業登記ヲ取扱フ登記所ニ於テノミ之ヲ取扱ハシム

●耕地整理法 (明治三十二年三月二十日) (法律第八十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テル耕地整理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一章 總則
第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ耕地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ其ノ所有者共同シテ土地ノ交換者ハ分合、區劃形狀ノ變更及道路、畦畔者ハ溝渠

ノ變更廢置ヲ行フヲ謂フ

第二條 第五條、第九條、第十條、第十二條乃至第十六條、第二十六條、第三十條乃至第三十二條及第五十一條ノ規定ハ一人ニシテ其ノ所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用ス

第三條 耕地ニシテ特別ノ價值用途アル土地及耕地ニアラサル土地ハ其ノ所有者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得以テ其ノ整理ノ必要ナルトキ前項ノ土地ニシテ其ノ所有者ノ同意ヲキトキト雖整理ノ施行ニ必要ナルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得但シ府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ公用ニ供スル土地ハ宅地、名勝地、舊蹟地、古墳墓地、墳墓地、社寺境内地、鐵道用地及軌道用地ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 建物アル宅地又ハ鐵道用地ハ其ノ建物ノ所有者及登記ヲ爲シタル第三權利者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得以テ其ノ整理ノ必要ナルトキ

第五條 御料地、國有地又ハ官ノ用ニ供スル土地ハ主務官廳ノ認許アルニアラ産業組合登記取扱場所 耕地整理法 總則 百九十七

第六條 整理地區ヲ登記所... 土地臺帳所管廳又ハ市役所... 町村役場ニ對シ無償

第七條 參加土地所有者ハ整理施行中其ノ土地ヲ利用スルコト不能ナルモ補償

第八條 整理施行ノ爲必要アル下キハ整理地區内ノ工作物、木石等ヲ移轉シ又

第九條 整理地區ニ編入シタル土地ヲ讓受ケタル者ハ整理ニ關シテ其ノ讓渡人

第十條 整理施行ノ爲國有ニ屬スル溝渠、堤塘、道路等ノ全部又ハ一部ヲ廢止

交付ス

整理地區内ニ開設シタル溝渠、堤塘、道路等ニシテ前項ノ規定ニ依リテ廢止

第十一條 參加土地所有者ニハ從前ノ土地ノ地目、面積、等位等ヲ標準トシ換

第十二條 整理地區ニ市町村以上ニ渉ル場合ニ於テ換地トシテ交付スル一筆ノ

第十三條 整理施行中土地ノ區劃形狀ノ變更及道路、畦畔若ハ溝渠等ノ變更廢

第十四條 整理地區ニ編入シタル土地ノ地租其ノ地區ノ全部並付土地臺帳ノ

耕地整理法 總則

百九十九

整理施行完了シタルヲ從前ノ地域ノ地目、地價ニ依リテ之ヲ徵收スル事並ニ
 第十五條ノ整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ
 依リテ之ヲ定メ、中ノ地價ノ高價額ノ地價ノ低價額ノ地價ノ平均額ニ依リテ之ヲ定メ、
 第十六條ノ整理施行ヲ爲シタル爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ストキハ
 登録稅ヲ免除スルニテ、市町村ノ地價ノ平均額ニ依リテ之ヲ定メ、
 第十七條ハ本法ニ於テ參加土地所有者ト稱スルハ整理地區内ニ於テ第五條ノ土
 地ニアラサル土地ヲ所有スル者ヲ謂フ、
 第十八條ノ整理地區ノ屬スル市町村及其ノ鄰接市町村ニ住所ヲ有セサル參加土
 地所有者ハ其ノ市町村内ニ住所ヲ有スル者ニ委任シテ整理施行ニ關スル切
 實ノ行爲ヲ代理セシムルコトヲ得、
 參加土地所有者前項ノ代理人ヲ定メタルト尚ホ發起人又ハ整理委員ニ其ノ氏
 名住所ヲ通知スヘシ、
 代理人ハ二人以上ノ參加土地所有者ヲ代理スルコトヲ得ス

第十九條 發起人又ハ整理委員ハ第二十二條第二十六條第四十條及第四十八條
 前ノ認可アリタルトキハ其ノ旨ヲ公告シ且之ヲ第四條ニ依ル建物所有者及土地
 又ハ建物ニ付登記ヲ爲シタル第三權利者ニ通知スヘシ第三十條乃至第三十二
 條ノ命令アリタルトキ亦同シ

第三章 發起及監督

第三十條 整理施行ヲ發起スルニ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 整理地區内ニ於タル土地所有者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト
 - 二 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ面積整理地區ノ總面積ノ三分
 一以上ノコト
 - 三 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ地價額整理地區ノ地價總額ノ
 三分ノ二以上ナルコト
- 前項ノ條件ヲ具備シタルトキ發起人ハ整理施行ヲ發起スル旨ヲ市町村長ニ
 届出ヘシ

耕地整理法 發起及監督

第三十一條 發起人ハ發起ノ爲必要アルトキハ市町村長ノ認許ヲ得テ他人ノ土

地ニ立入ルコトヲ得但シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第二十二條 發起人ハ設計書及規約ヲ作り地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣

ニ差出シ發起ノ認可ヲ申請スヘシ

第二十三條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理ニ因リテ得ヘキ利益

二 整理施行ノ方法及順序

第三十條 整理地區及之ニ鄰接スル土地ノ現形圖

四 整理豫定圖

五 工事ノ著手及竣成ノ時期

六 整理費用及夫役ノ豫算

第二十四條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理總會ノ招集及會議ノ方法

二 整理委員ノ員數、職務及職務執行方法

三 處務ニ關スル規定

四 補償金評定ノ標準

第五十條 發起及整理ノ費用並夫役ノ賦課徵收方法

六 整理中土地使用方法

第七十條 換地割當及増歩地處分ノ方法

第三十五條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創業總會ヲ招集シテ

設計書及規約ノ議定ヲ求ムヘシ

第二十六條 創業總會ニ於テ設計書及規約ヲ議定シタルトキハ發起人ハ地方長

官ヲ經由シテ農商務大臣ニ之ヲ差出シ整理施行ノ認可ヲ申請スヘシ

第二十七條 整理施行ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創業總會ヲ招集

スヘシ此ノ總會ニ於テハ參加土地所有者整理委員ヲ互選ス

第二十八條 參加土地所有者ハ整理施行ノ認可ニ對シテ異議ヲ述ブルハ此法ヲ得

耕地整理法 發起及監督

第三條第二項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地ノ所有者ハ認可公告ノ日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 整理施行ノ認可アリタル土地ニ於テ雖第三條第二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地アルトキハ認可公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過スルニアラ

第三十條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ設計書又ハ規約ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十一條 設計書ニ定メタル工事着手ノ期限後十二箇月以内ニ工事ニ着手セ

第三十二條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ一時整理工事ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第三章 總會

第三十三條 總會ハ參加土地所有者ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十四條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ五日以前ニ各參加土地所有者ニ通知ヲ

發スルコトヲ得

前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スベキ事項ヲ記載スルコトヲ

第三十五條 總會ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外整理委員之ヲ招集

第三十六條 參加土地所有者ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ整理地區ノ總面積若

前項ノ請求アリタルトキハ發起人又ハ整理委員ハ十四日以内ニ總會ヲ招集ス

耕地整理法 總會

第三十七條 各參加土地所有者ハ一箇ノ議決權ヲ有スルモ、前項ノ規定ハ規約ヲ以テ一人ニ付三箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ妨ケス但シ其ノ議決權ノ議決權總數ノ五分以テ之ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十八條 整理地區ニ編入シタル土地數人ノ共有ニ屬スルトキハ其ノ共有者ハ參加土地所有者ノ權利ヲ行フベキ者一人ヲ定ムベシ

第三十九條 農商務大臣ノ命令ニ依リテ設計書若シテ規約ヲ變更シ又ハ整理施行ヲ停止者ハ廢止セシムルコトヲ總會ノ議決權ヲ經テ之ヲ得

前項ニ依リ整理施行ヲ停止者ハ廢止ノ議決權ヲ爲ストキハ同時其ノ停止中若シテ廢止後ノ處分方法ヲ決議スベシ

第四十條 前條ノ決議ヲ以テ整理委員地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第四十一條 創業總會ノ決議並第三十九條、第四十七條及第五十三條ノ決議ヲ

爲スニハ第二十條第一項ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

第四章 整理委員

第四十二條 前條ノ整理委員三人以上ナルトキハ委員長一人ヲ互選スベシ

第四十三條 整理委員ハ規約ニ定メタル職務ヲ執行スルニ付參加土地所有者ヲ代表ス

第四十四條 整理委員ハ設計書及規約ノ定メタル所ニ依リ整理施行ノ責任ヲ擔

第四十五條 整理委員ハ設計書、規約及總會ノ決議錄ヲ備ヘ置クベシ

參加土地所有者及第三權利者ハ前項ノ書類ヲ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第四十六條 農商務大臣ハ何時ニテモ整理委員ヲシテ整理事業ニ關シテ報告ヲ

第四十七條 前條ノ整理事業完了シタルトキハ整理委員ハ第十一條ノ處分及増歩地ノ

處分ニ關シ整理總會ノ決議ヲ經ベシ

耕地整理法 理委整理員

第四十八條 前條ノ決議アリタルトキハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受ケルシ

第四十九條 所有權ニ關スル訴訟ノ目的タル土地ヲ整理地區ニ編入シ又ハ整理地區ニ編入シタル土地其ノ所有權ニ關スル訴訟ノ目的ト爲タル場合ニ於テ其ノ土地ノ所有者第十一條ノ規定ニ依リ補償額シテ金錢ヲ受取ルベキトキハ整理委員ハ當事者ノ請求ニ因リ其ノ金額ヲ供託スルシテ

第五十條 整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲シ場合ニ於テハ整理委員ハ參加土地所有者ニ代リテ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十一條 整理事業完了シタルトキハ整理委員ハ事業報告書及收支決算書ヲ作リ整理總會ノ承認ヲ求ムヘシ

整理總會前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ整理委員ハ遲滯テ地方長官ヲ經由シテ前項ノ書類ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第五十二條 整理委員其ノ職務ヲ終リタルトキハ整理ニ關スル一切ノ書類ヲ市

町村長ニ引渡スヘシ

第五十三條 整理委員ノ選任及解任ハ總會ノ決議ニ依ル

第五十四條 農商務大臣必要ノ承認アルニシテ整理委員ノ改選ヲ命ズルコトヲ得

第五十五條 整理委員ハ總會ノ決議ヲ經テ特別ノ學術技藝アル者ヲ協議員ト爲シ

第五十六條 第三權利者ハ整理施行ニ對シテ異議ヲ述ブ時其ノ得テ

第五十七條 換地ノ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外從前ノ土地ニ關スル物

權又ハ債權ノ目的タル地ノ整理施行ニ對シテ異議ヲ述ブ時其ノ得テ
整理施行ハ從前ノ土地ニ關スル登記ノ順位ニ影響ヲ及ブ
耕地整理法 第三權利者
二百九

其利益ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役權ノ設定ヲ要求スルモノヲ得ル旨

第六十四條 費用及夫役ノ規約ハ定ムル所ニ依リ參加土地所有者之ヲ負擔ス

整理委員方規約ヲ定ムル所ニ依リ農工銀行ヨリ借入レタル金額及其ノ利子ニ

兼付テハ參加土地所有者連帶シテ其ノ責ニ任ムルニ依リ三十五年法律第五號ヲ以テ

第六十五條 參加土地所有者諸費用ヲ完納セザルハ市町村長ハ整理委員ノ請

求ニ因リ市町村稅徵收ノ方法ニ準シテ之ヲ徵收ス

參加土地所有者夫役供給費ハ整理委員所定額ニ算出シテ之ヲ徵收

此ノ徵收ニ付テハ前項ノ規定ニ依リ

第六十六條 發起人及ハ整理委員左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ二圓以上五

十圓以下ノ過料ニ處ス

一 第十九條ノ規定ニ違反シテ公告又ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 第二十八條第一項又ハ第二十九條ノ規定ニ違反シテ整理工事ニ著手シタ

三 第三十六條第三項ノ規定ニ違反シテ總會ヲ招集セザルトキ

第四十條第三十九條及第四十條ニ依リテ整理施行ヲ停止シ又ハ廢止シ

第六十七條 前條ノ規定ニ依リ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二

百八條ノ規定ニ準ジテ之ヲ徵收ス

第六十八條 整理施行ノ爲メケタル標石又ハ標杭ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル場合

ニ於テ刑法第四百二十條ニ該當セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ三十三年勅令第

四號ヲ以テ三十三年一月十五日ヲ定メラル)

第七十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ三十三年勅令第

四號ヲ以テ三十三年一月十五日ヲ定メラル)

第七十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ三十三年勅令第

四號ヲ以テ三十三年一月十五日ヲ定メラル)

第七十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ三十三年勅令第

四號ヲ以テ三十三年一月十五日ヲ定メラル)

第七十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ三十三年勅令第

四號ヲ以テ三十三年一月十五日ヲ定メラル)

第七十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ三十三年勅令第

四號ヲ以テ三十三年一月十五日ヲ定メラル)

第七十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ三十三年勅令第

四號ヲ以テ三十三年一月十五日ヲ定メラル)

第七十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ三十三年勅令第

四號ヲ以テ三十三年一月十五日ヲ定メラル)

第七十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ三十三年勅令第

四號ヲ以テ三十三年一月十五日ヲ定メラル)

第七十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ三十三年勅令第

四號ヲ以テ三十三年一月十五日ヲ定メラル)

第七十條 耕地整理地區編入ノ要領土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ

第七十一條 北海道、沖繩縣及市制、町村制ヲ施行セサル島嶼ノ耕地整理ニ付

テ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得テ其ノ範圍及年限ニ關シテ勅令

第六十八條 耕地整理法施行規則

耕地整理法施行規則左ノ通相定メ

耕地整理法施行規則

第四條 耕地整理地區内ニ於テ土地ヲ所有スル者ニ非ズル者整理施行ヲ發起スル

第五條 耕地整理法第六條ノ規定ニ依リ整理ニ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ

求メシトスル者其理由ヲ記載シテ公書面ニ市町村長及證明書ヲ添附シ之ヲ

差出スルコトヲ得

第三條 發起人ハ參加土地原簿及ヒ參加土地權利者名簿ヲ調製スヘシ

第四條 參加土地原簿ニ於テ左ノ事項ヲ記載スヘシ

第一 整理地區内ニ於ケル土地ノ筆數、面積及ヒ地價ノ地目別合計並ニ一筆平

第二 整理地區内ニ於ケル土地ノ筆數、面積及ヒ地價ノ地目別合計並ニ一筆平

第三 土地各筆ノ字、番號、地目、面積、地價及等位

第四 土地各筆ノ價格ヲ評定シテ其價額又ハ評價ノ標準

第五 耕地整理法第三條ニ定メタル土地アルトキハ其價值用途

第六 整理地區内ノ工作物アルトキハ其表示及ヒ價格

第七 訴訟ノ目的タル土地アルトキハ其訴訟ノ要領

第八 官用又ハ公用ニ供スル土地アルトキハ其用途

第五條 參加土地權利者名簿ニ於テ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 各參加土地所有者ノ姓名、住所及ヒ其所有地ノ字、番號並ニ地目

耕地整理法施行規則

二百十五

- 一 整理地區内以主作物ノ所有者ノ氏名、住所及ヒ工作物ヲ表示スル
- 二 整理地區内ニ於ケル土地ノ所有者ノ氏名、住所及ヒ其登記ノ要領
- 三 耕地ノ所有者ノ氏名、住所及ヒ其登記ノ要領
- 四 耕地整理法第十八條ニ依ル代理人ノ氏名、住所
- 五 第六條ニ參加土地原簿又ハ參加土地權利者名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル條キハ遲滞ナク之ヲ更正スル
- 六 第七條ニ耕地整理法第二十條第一項第二號ノ土地所有者ノ數ヲ計算スルニ付テハ共有者ノ之ヲ一人ト看做ス
- 七 第八條ニ耕地整理法第二十條第一項第二號ノ整理地區ノ總面積ヲ計算スルニ付テハ御料地及田國有地ハ之ヲ算入ス
- 八 第九條ニ耕地整理法第二十條第三號ノ整理地區ノ地價額ヲ計算スル場合ニ於テ整理地區内ニ地類若クハ地目ヲ變換ヲ爲シタル土地又ハ開墾地其他地價額附セサル土地アルトキハ發起人ハ其現況ニ依リ整理地區内ノ土地ノ地價

- 九 發起人ハ前項ノ規定ニ依リ價格ヲ評定シタルトキハ其價格及ヒ其評定ノ標準ヲ創業總會ニ報告シテ其承認ヲ求ムヘシ
- 十 發起人ハ整理地區ノ屬スル市町村内ニ事務所ヲ設ケ本法ニ依リ前項ノ事務所ニ參加土地原簿、參加土地權利者名簿、設計書、規約及ヒ總會ノ決議ヲ備へ置ク
- 十一 整理施行ノ發起屆書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人ノ署名捺印スヘシ
- 十二 整理地區及ヒ之ニ鄰接スル土地ノ現形略圖
- 十三 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ總數、整理地區ノ總面積及ヒ地價總額
- 十四 同業者ノ總數、其所有スル土地ノ總面積及ヒ地價總額
- 十五 事務所ノ所在

耕地整理法施行規則

第十二條 發起人カ耕地整理法第二十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入ラン
トスルトキ其目的、場所、期日及ヒ土地所有者ノ氏名ヲ記載シタル願書ヲ
作り之ヲ市町村長ニ差出スヘシ

發起人カ市町村長ノ認許ヲ得タルトキハ豫メ土地所有者ニ立入ノ目的、場所
及ヒ期日ヲ通知スヘシ

第十三條 整理發起ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人之ニ署名捺印ス
ルベシ

第十四條 第二號乃至第五號及ヒ第十一條第二號乃至第十四號ニ掲ケタル事
項

一 整理施行後ニ於ケル土地ノ筆數及ヒ面積地目別ノ合計並ニ一筆平均面
積

二 同意者ノ氏名、其所有スル土地ノ面積及ヒ地價

三 耕地整理法第三條第二項ノ規定ニ依リ所有者ノ同意ナクシテ整理地區ニ
編入シタル土地又ハ特ニ整理ヨリ除外シタル土地アルトキハ其編入又ハ

除外ノ理由

前項ノ申請書ニハ土地所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十四條 耕地整理法第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ整理地區編入ノ同意又ハ
認許ヲ要スル土地ニ付テハ發起人ハ整理發起ノ認可申請書ニ其同意又ハ認許

ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但國有ノ地、森林原野、道路、堤防、溜池及ヒ
溝渠ニ付テハ整理發起ノ認可申請ト共ニ整理地區編入ノ認許ヲ申請スルコ
トヲ得

第十五條 整理工掛カ府縣、郡、市、町村其他ノ公共團體カ事業ニ關スルトキハ
整理發起人ハ整理發起ノ認可申請書ニ其團體ノ承認ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十六條 創業總會ニ於テ設計書ヲ變更シタルトキハ前二條ノ書面ハ整理施行
後ヲ認可申請書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ規定ハ整理施行ノ認可アリタル後設計書ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用
耕地整理法施行規則

第十七條 發起人が特別ノ技能ヲ有ル者ニ設計書及ヒ規約ノ作成ヲ囑託スルコト

第十八條 (三十四年農商務省令十三號ヲ以テ削除)

第十九條 土地ノ價格評定ノ標準ヲ定メタル事ノ之ヲ規約ニ記載スヘシ

第二十條 整理費用ヲ借入レントスルトキハ其借入、管理及ヒ償却ノ方法ヲ規

第二十一條 整理發起ノ認可ノ公告及ヒ通知ニ於テ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理地區ノ所在

二 整理發起認可ノ年月日

三 事務所ノ所在

四 發起人ノ氏名、住所

第二十二條 耕地整理法第二十五條ノ創業總會ニ於テ發起人ノ發起ニ關スル

一切ノ事項ヲ報告シテ其承認ヲ求ムヘシ

第二十三條 整理施行ノ認可申請書ニ於テ發起認可證及ヒ總會ノ決議録ヲ附本

添附シ發起人ノ署名捺印スヘシ

第二十四條 整理施行ノ認可ノ公告及ヒ通知ニ於テ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理地區ノ所在

二 整理工事ノ着手及ヒ竣成ノ時期

三 整理施行ノ認可ノ年月日

第二十五條 發起人ノ創業總會ノ決議録ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 開會ノ日時及ヒ場所

二 出席シタル參加土地所有者ノ氏名

三 決議シタル事項

四 賛否ノ數及ヒ賛成者ノ氏名

耕地整理法施行規則

五 發行者ノ所有ノ水田地ノ總面積及ヒ地價總額（三十四年農商務省令第十
四三號ヲ以テ追加）

第三十六條 發起人ハ整理ニ關スル一切ノ書類及ヒ事務ヲ整理委員ニ引續クヘ
シ

第二十條 總會ノ決議ハ耕地整理法又ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出
席者タル者參加土地所有者ノ議決權ハ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十八條 參加土地所有者ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得但參加土地
所有者ニ非サルハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ發起人又ハ整理委員ニ差出スヘシ

第二十九條 耕地整理法第四十條ノ規定ニ依ル認可申請書ニ決議錄ノ謄本ヲ
添附シ整理委員之署名捺印スヘシ

第三十條 總會ノ決議認可ハ告示及ヒ通知ニ決議錄ノ事項及ヒ認可年月
日ヲ記載スル告示ノ其旨ヲ通知スル

第三十一條 整理委員及ヒ整理委員長ハ其氏名ハ住所ヲ農商務大臣ニ届出テ且
之ヲ公告スヘシ（三十四年農商務省令第十二號ヲ以テ本條中改正）

第三十三條 整理委員ノ規約ニ別段ノ定アル非キハ報酬ヲ受クルコトヲ得
第三十六條 前條ノ届出タルハ整理委員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出

第三十四條 整理工事著手後並テ前條整理委員其旨ヲ農商務大臣ニ届出
後ハ一經ノ上訴ハ一經之受理スルハ整理委員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出

第三十五條 耕地整理法第二十八條ノ規定ニ依リ訴願ヲ爲シタル者ハ其旨ヲ整
理委員ニ通知スヘシ並ニ其旨ヲ整理委員ニ通知スルハ整理委員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出

第三十六條 總會ノ決議錄ニ第二十五條ニ掲タル事項ヲ記載スヘシ但同條
第六號ニ掲タル事項ハ耕地整理法第三十九條第四十七條及第五十三條ノ

場合ヲ除ク外之ヲ記載スルハ要セス（三十四年農商務省令第十二號ヲ以
テ但書追加）

耕地整理法施行規則
二百二十三

第三十七條 整理委員ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ從ヒ地價配當案ヲ
 作リ耕地整理法第四十七條ノ整理總會ノ決議ヲ經テ之ヲ申請シ合衆十二號ノ規
 第三十八條 耕地整理法第四十八條ノ規定ニ依リ認可申請書ハ整理總會ノ決議錄
 及之附本及ヒ整理確定圖添附シ整理委員之署名捺印スルニテ之ヲ提出スル
 耕地整理法第十一條第二項ノ規定ニ依リ換地ノ割當シル場合ニ於テハ從前ノ
 換地及之各筆地相當ナル換地ノ方位及之面積ヲ整理確定圖ニ示スルニテ之ヲ提出ス
 從前ノ一筆ノ土地ノ一部ヲ登記シタル第三權利者ノ權利ノ目的タル場合ニ於
 テ之ハ之ニ代テ之ノ部分ノ方位及之面積ヲ整理確定圖ニ示スルニテ之ヲ提出ス
 第三十九條 前條ノ認可アリタルトキハ整理委員ハ地價配當案ニ整理確定圖ヲ
 添附シ之ヲ轄稅務管理局長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受クヘシルニテ之ヲ提出ス
 第四十條 農商務大臣必要ト認メ換地ノ整理事業ヲ検査ヲ爲サシムルコトヲ
 得
 第四十一條 整理地區内ノ土地又ハ建物ニ關シ登記法爲之ルルニテハ登記權利

者ハ遲滞ナク其旨ヲ發起人又ハ整理委員ニ通知スヘシ

第四十二條 整理ニ關スル書類ノ保存期間ハ左ニ掲グルモノニ付テハ十年トシ

其他ノモノニ付テハ五年トス

第一 設計書

第二 規約

第三 總會ノ決議錄

第四 事業報告書

第五 收支決算書

第六 參加土地原簿

第七 參加土地權利者名簿

第八 整理確定圖

第四十三條 第三十一條及ヒ耕地整理法第十九條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スヘキ

場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役所又ハ町村役場ノ揭示場

耕地整理法施行規則

三 揭示スヘシ

第四十四條 發起人、整理委員又ハ參加土地所有者ガ書面ヲ農商務大臣ニ差出
ホトキハ、地方長官ヲ經由スヘシ

第四十五條 第三條乃至第六條、第十五條、第十六條第二項、第十八條、第三
十四條、第三十九條、第四十條及ヒ前條ノ規定ハ一人ニシテ其所有地ノ整理
ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用ス、

附則

第四十六條 地方長官カ地方ノ狀況ニ依リ整理施行ノ方法又ハ工事ノ設計ニ關
スル標準ヲ定メントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第四十七條 本則ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●整理地登記規則

(明治三十三年一月十一日)
勅令 第一二二號

朕整理地登記規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 耕地整理法ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ本令ニ別
段ノ定アルモノヲ除クノ外不動産登記法ノ規定ニ依ル

第二條 整理ヲ施行シタル從前ノ土地既登記ナルトキハ整理委員ハ耕地整理法
第四十八條ノ認可アリタルコトノ公告及通知ヲ爲シタル後遲滞ナク登記ヲ申
請スルコトヲ要ス從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テ
其ノ數箇ノ土地中ニ既登記ノモノアルトキ又ハ從前ノ土地未登記ナルモ整理
施行ノ後換地ノ上ニ既登記ノ地役權存続スルトキ亦同シ

第三條 前條ノ登記ヲ申請スルモノハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス
一 申請書
二 耕地整理法第四十八條ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ認可證又ハ認證アル認
可證ノ謄本
三 整理確定圖
四 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルモノハ其ノ權限ヲ證スル書面

整理地登記規則
二百二十七

第四條 申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ整理委員又ハ其ノ代理人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 従前ノ土地及換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號

二 従前ノ土地及換地ノ地目、段別又ハ坪數

三 従前ノ土地ニ割當テタル換地ノ部分、段別又ハ坪數及其ノ部分ノ符號

四 換地ノ交付ヲ受ケタル者ノ氏名及住所若シテ法人トキハ其ノ名稱及事務所

五 耕地整理ニ因リ登記ヲ申請スル旨

六 登記所ノ表示

第七條 従前ノ土地既登記ナルト未登記ナルトノ間ハ換地ノ既登記ノ地役權存續スル場合ニ於テハ申請書ニ前條ニ掲分タル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス但シ地役權換地ノ一部ノミニ存スルトキハ其ノ部分ヲ表示シ

一 整理施行前ニ於ケル換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號

二 整理施行前ニ於ケル換地ノ地目、段別又ハ坪數

三 整理施行前ニ於ケル換地ノ所有者ノ氏名及住所若シテ法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

四 地役權ノ存スル換地ノ部分及其ノ部分ノ符號

第六條 換地ノ一部所有權以外ノ權利ヲ除去シ目的タル場合ニ於テハ申請書ニ

第四條ニ掲分タル事項ノ外權利ノ目的タル換地ノ部分及其ノ符號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七條 參加土地所有者従前ノ土地ノ箇ニ對シテ箇ノ換地ヲ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ登記官吏ハ従前ノ土地ノ登記用紙中標示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕

地整理ニ因リテ登記ヲ爲シ指印記載シ前條ニ表示及其ノ番號ヲ抹消スルコトヲ要ス

整理地登記規則

所有權以外ノ權利ヲ除ク從前ノ土地ノ一部ニ存スル場合ニ於テハ登記官吏ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地中權利ノ目的ヲ付シ部分ニ割當テタル換地ノ部分ヲ表示シ爲シ耕地整理ニ因リテ變更シ得ル旨ヲ附記シ從前ノ土地中權利ノ目的ヲ付シ部分ヲ表示シ爲シ耕地整理ニ因リテ變更シ得ル旨ヲ要ス

從前ノ土地ニ關スル權利ニ付シ他ノ土地ニ關スル權利ト共ニ先取特權ノ質權又ハ抵當權ノ目的ヲ爲シ換地ニ於テ耕地整理ニ因リテ他ノ土地ニ關スル權利ヲ表示シ變更シ得ル旨ヲ付シ登記官吏ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ變更ヲ附記スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ不動産登記法第百三十六條ノ規定ヲ準用ス

換地ニ地役權ニ關スル登記官吏ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中內區事項欄ニ其ノ登記ヲ移シ其ノ登記ノ末尾ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス但シ耕地整理

理ニ因リ其ノ登記中ニ記載シタル要役地若ハ承役地ノ表示ハ地役權ノ範圍又ハ地役權ノ存スル土地ノ部分ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ變更ヲ附記シ地役權ノ存スル部分ヲ表示シ爲シ變更シタル事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル時ハ登記官吏ハ職權ヲ以テ地役權ニ關スル登記ノ土地ノ登記用紙中內區事項欄ニ耕地整理ニ因リテ地役權ニ關スル登記何號ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ前ノ登記ヲ朱抹シ捺印スルコトヲ要ス

第八條 參加土地所有者從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケ得ル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ數箇ノ土地中其ノ一箇ノ登記用紙中表示欄ニ換地ノ換地ヲ從前ノ土地ニ割當テタル部分及整理施行前ニ於ケル從前ノ土地ノ表示ヲ爲シ他ノ登記用紙ニ登記シタル從前ノ土地ニ付テハ其ノ登記番號ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ其ノ登記用紙ニ於ケル前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

整理地登記規則

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ整耕地理
ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示、其ノ番號及登記番號ヲ朱
抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第九條 前條ノ場合ニ於テハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項欄ニ他
ノ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其ノ登記ノ從前ノ土
地ニ割當テタル換地ノ某部分ニ關スル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲
ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要
ス

換地ノ一部未登記ノ從前ノ土地ニ割當テタル場合ニ於テハ換地ノ表
示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項欄ニ其ノ換地ノ部分ニ付所有權保存ノ登記
ヲ爲シコトヲ要ス
他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利地役權ニ關スル登記アルトキ
ハ登記官吏ハ職權ヲ以テ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中相當區事項欄ニ其

ノ權利ニ關スル登記ヲ移シ從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ某部分ニ其ノ權
利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨及其ノ年月日ヲ
記載シ捺印スルコトヲ要ス

第十條 參加土地所有者從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場
合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ一箇ノ換地ノ表示ヲ
爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スル
コトヲ要ス

從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利地役權ニ關スル登記アルトキハ登
記官吏ハ職權ヲ以テ相當區事項欄ニ他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ
權利ノ共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨
及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス

第十一條 前條ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ他ノ各換地ニ付登記用紙中登記番號
欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換
整理地登記規則
二百三十三

地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス
 換地ノ登記用紙中申區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登
 記ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號
 ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス
 從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ヲ除クニ關スル登記アルトキハ登
 記官吏ハ職權ヲ以テ換地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙
 ヨリ其ノ權利ニ關スル從前ノ登記ヲ轉寫シ且從前ノ土地ニ割當テタル他ノ換
 地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、
 耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス
 第十二條 第七條第二項乃至第五項ノ規定ハ參加土地所有者從前ノ土地數箇ニ
 對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケ又ハ從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ノ交付ヲ
 受ケタル場合ニ於ケル登記ニ之ヲ適用ス
 第十三條 未登記ノ從前ノ土地ニ對スル換地ニ地役權ノ登記アル場合ニ於テハ

登記官吏ハ職權ヲ以テ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順
 序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ
 登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ申區事項欄ニ所有權保存ノ登記ヲ爲シ且丙區事項欄ニ
 地役權ニ關スル登記ヲ移スコトヲ要ス
 第七條第四項及第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
 第十四條 登記官吏登記ヲ完了シタルトキハ其ノ旨ヲ整理委員ニ通知スルコト
 ヲ要ス
 第十五條 登記官吏第十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ換地及之ニ割
 當テタル從前ノ土地ノ表示、耕地整理ニ因リテ所有權及地役權ニ關スル登記
 ヲ爲シタル旨ヲ換地ノ所有者ニ通知スルコトヲ要ス
 第十六條 從前ノ土地舊登記簿ニ登記シタルモノナル場合ニ於テ第八條第二項
 ノ手續ヲ爲スヘキトキハ舊登記簿ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ得
 第十七條 耕地整理法第二條ノ規定ニ依リ一人ニシテ其ノ所有地ノ整理ヲ施行
 整理地登記規則
 二百三十五

シタル場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ整理施行ニ關スル農商務大臣ノ認可證又ハ認證アル認可證ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

附則

本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●整理地登記取扱手續 (明治三十三年三月七日 司法省令第九號)

整理地登記取扱手續左ノ通相定ム

第一條 整理地登記規則ニ依ル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外 不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル

第二條 整理地ノ登記ニ付テハ別ニ整理地登記見出帳ヲ備フヘシ 整理地登記見出帳ハ別記雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條 整理地登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテテ設ケ置キ整理地登記規則ニ依ル登記ヲ爲ス毎ニ換地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部冠シタルハ

一ノ部ニ記ニ換地ノ番號、從前ノ土地ノ番號、登記用紙ヲ編號セル登記簿ノ入スルノ類ニ換地ノ番號ヲ記入スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ土地登記見出帳又ハ土地分合登記見出帳ノ備考欄ニ從前ノ土地ニ對スル換地ノ番號ヲ記入シ其見出テ朱抹スヘシ

第四條 整理確定圖及ヒ整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出シタル圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記番號ヲ記載スヘシ

前項ノ圖面ニハ番號ヲ附シ便宜之ヲ整理シ申請書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ (三十五年司法省令第十四號ヲ以テ本項追加)

第五條 整理確定圖ノ番號ハ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ記載シ整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出シタル圖面ノ番號ハ丙區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ

第六條 整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出スヘキ圖面ニハ換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、方位及ヒ地役權ノ存スル換地ノ部分ノ整理地登記取扱手續

段別又ハ坪數並ニ其部分ノ符號ヲ記載シテ整理委員署名、捺印スヘシ

第七條 整理地登記規則第七條第三項、第十二條、第十四條及ヒ第十五條ノ通

知事項、通知ヲ受クル者及ヒ通知ヲ發スル年月日ハ不動産登記法施行細則第

十四條第五號ノ通知簿ニ之ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ(三十五年司法省令

第十四號ヲ以テ改正)

第八條 耕地整理法第六條ノ規定ニ依ル登記簿其他附屬書類ノ謄寫ハ登記官吏

ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

(別記雜形略ス)

●漁業法

(明治三十四年四月十二日法律第三十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル漁業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

漁業法

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ採捕又ハ養

殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權ヲ享有スル者ヲ謂フ

第二條 私有水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條 漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區畫シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ

行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指

定ス

前項ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定

第四條 水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ

受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ヲ專用セムトスル場合ヲ除クノ外

從來ノ慣行アルニ非サレバ之ヲ與ヘス

第五條 漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタルトキハ行政官廳ハ漁

漁業法

業ノ種類ヲ限定シテ免許ヲ與フルコトヲ得

從來ノ慣行ニ因リ前條ノ免許ヲ出願シタルトキハ行政官廳ハ其ノ慣行ニ因リ漁場ノ區域及漁業ノ種類ヲ定メ之ヲ免許ス

第六條 漁業免許ノ期間ハ二十箇年以内トス但シ第九條第一項ニ依リ免許ヲ停止シタル期間ハ免許期間ニ算入セズ

免許期間ハ免許ヲ受ケタル者ノ申請ニ因リ之ヲ更新スルコトヲ得

第七條 漁業權ハ相續、讓渡、共有及貸付ノ目的ト爲スルコトヲ得但シ地先水面專用ノ漁業權ヲ處分スルハ行政官廳ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

第八條 漁業權ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ一箇年間漁業ニ従事スル者ヲキトキモ行政官廳ニ於テ其ノ免許ヲ取消スルコトヲ得引續キ二箇年間休業シタルトキ亦同シ但シ行政官廳ノ認可ヲ受ケ休業シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第一項ニ依リ免許ヲ停止シタル期間ハ前項ノ期間ニ算入セズ

第九條 行政官廳ハ水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ

漁業免許ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ之ヲ取消スルコトヲ得

漁業者ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキ亦

前項ニ同シ

第十條 漁場ノ區域又ハ方位ヲ標示スル爲標識ヲ建設セ左トスル者ハ他人ノ土地ニ立入又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

第十一條 行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ヲ建設ヲ命ズルコトヲ得

第十三條 第十條ニ依リ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルカ爲生シタル損

失ハ其ノ請求ニ依リ之ヲ補償スルコトヲ得

第十三條 地方長官ハ水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可

ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一 水産動植物ノ採捕若ハ販賣ニ關スル制限又ハ禁止

一 漁具若シテ漁船若ハ採捕方法ニ關スル制限又ハ禁止

漁業法

一 漁業者ノ數又ハ其ノ資格ノ制限

一 水産動植物ニ有害ナル物質ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前三項ノ命令ニハ漁具及漁獲物ノ沒收ニ關スル罰則ヲ設クルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ遡河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ一定ノ

區域内ニ於ケル工作物設置ノ制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ遡河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所

有者ニ除害工事ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 前條第二項ニ依リ除害工事ヲ命ジタルトキハ主務大臣ハ工作物ノ所

有者ニ對シ相當ノ金額ヲ補償スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ

命ジタルトキハ主務大臣ハ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

第十六條 行政官廳ハ水産動植物ノ蕃殖保護ニ必要アリト認ムルトキハ公有水

面ニ通スル私有水面ニ前三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 漁業ニ從事スル雇人及雇主ノ取締ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定

ム

第十八條 一定ノ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業組

合ヲ設置スルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ濱、浦、漁村其ノ他漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ム

ル

前項ノ區域ニ依リ難キ場合ニ於テハ市町村又ハ之ニ準スルキ區域内ニ於テ其

ノ地區ヲ定ムルコトヲ得

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第十九條 漁業組合ハ漁業權ノ享有及行使ニ付權利ヲ有シ義務ヲ負フ但シ自ら

漁業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ專用ノ免許ヲ受ケタルトキハ組合規

則

漁業法

二百四十三

約不定ル所ニ依リ組合員ヲシテ漁業ヲ爲サシムヘシ

第二十一條 漁業組合ノ設置、管理及監督ニ關スル規定ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十二條 漁業者又ハ水産動物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ故

其發達及水産動物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水産組合ヲ設置スルコトヲ得

水産組合ニ關シテハ重要物産同業組合法ノ規定ヲ準用ス但シ同法中農商務大

臣ニ屬スル職權ハ主務大臣之ヲ行フ

第二十三條 漁業免許若ハ其ノ更新ヲ拒否セラレタル者又ハ第八條、第九條若

ハ第十四條第二項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起

スルコトヲ得

前項ノ處分ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起

スルコトヲ得

第二十四條 漁業免許ノ違法許可若ハ其ノ更新ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリト

スル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 漁場ノ區域、漁業權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭ア

ルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル申請者又ハ爭議ノ相手

方ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 免許ニ依ラスシテ免許ヲ受ケヘキ漁業ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ

罰金ニ處ス免許ノ停止中又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違背シテ漁業ヲ爲シタル

者亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ漁獲物及何人ノ所有ヲ間ハス漁具ヲ沒收ス但シ沒收スヘ

キ漁獲物ヲ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第二十七條 使用人、漁夫其ノ他ノ從業者ノ所爲ハ漁業者ノ所爲ト看做シ前條

ノ罰則ハ之ヲ漁業者ニ適用ス

第二十八條 第三條、第四條ノ權利ヲ侵害シタル者ハ被害者ノ告訴ニ因リ百圓

漁業法

以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 漁場ノ標識ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 明治三十三年法律第五十二號ノ規程ハ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ適用ス

附則

第三十一條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 本法ノ規定ハ臘虎臘獸獸法ノ效力ヲ妨ケス

第三十三條 本法施行前ニ受ケタル漁業ノ免許又ハ公有水面使用免許ニ依ル

第三條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ免許期間ハ第六條ノ期間内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

第三十四條 從來ノ慣行ニ因ル第三條又ハ第四條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ出願スルトキハ之ニ免許ヲ與フヘシ

前項ノ漁業者ハ其ノ免許ヲ出願シタル者ニ在リテハ許否ノ處分ヲ受クル迄ノ間其ノ他ニ在リテハ本法施行後一箇年間仍従前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 本法施行前ニ於テ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲行政官廳ノ認可ヲ得テ設置シタル組合ニ於シテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ牴觸セザルモノハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル水産組合ト看做ス

取引所法

(明治二十六年三月三日法律第五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル取引所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所法

第一章 取引所ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種

取引所法 取引所ノ設立

第一條 物件を取引所ヲ設立スルコトヲ得ルハ、前條ノ規定ニ依リ、同一種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立スルコトヲ得但シ其地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ヲ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及會員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得

取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及指圖式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受ケヘシ

第三章 取引所ノ會員、株主及仲買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ従事シタル商人ハ定款ノ

規程ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ従事シタル商人ニシテ年齢

二十五歳以上ノ者ハ政府ノ免許ヲ受ケ其ノ取引所ノ仲買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物

件ヲ賣買取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受ケルコトヲ得

取引所法 取引所ノ組織 取引所ノ會員、株主及 仲買人 二百四十九

第十一條 帝國臣民ニ非サルハ取引所ノ會員又ハ仲買人トナルコトヲ得ス(三十二年法律第五十八號ヲ以テ本條中株主ノ二字ヲ削リ三十二年七月十七日ヨリ施行ス)

婦女、未成年者、公權剝奪及停止中ノ者、復權セサル破産者及家資分散者並ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス
重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪、商業及農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ滿期若ハ赦免後二箇年ヲ經サル者及前項ニ該當スル者ハ取引所ノ仲買人タルコトヲ得ス

第十三條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルヲ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスル事間禁ス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受ケルトキ免許料ヲ納ムヘシ

免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 取引所ノ會員及仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲メ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以内ノ過愈金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ

任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受ケヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事長

理事

監査役

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨グナシ

取引所法 取引所ノ役員

第十二條 第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス
第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其ノ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス
但シ監査役ハ此ノ限ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引、延取引及定期取引ノ三種トス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金を納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引所ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金を以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責任ヲ負ハシ、前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ

違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應ジ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ノ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行為法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公眾ノ安寧ニ妨害スルコトヲ認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取引所ノ解散

二 取引所ノ停止

三 取引所ノ一部ノ停止若ハ禁止

取引所法 取引所ノ賣買取引 取引所ノ監督

四 役員ノ解職

五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財產其ノ他一切ノ物件及會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 第十二條第一項及第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五十圓以上

五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十三條 取引所ノ税則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム(二十六年法律第六號ヲ以テ取引所税法ヲ定ム)

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月

取引所法 罰則 附則

以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

取引所法施行規則

(明治三十二年七月二十六日 農商務省令第十八號)

明治二十六年(七月)農商務省令第十三號ヲ左ノ通改正ス

取引所法施行規則

第一條 會員組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シ
之ヲ發起認可申請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ
農商務大臣ヨリ差出スヘシ

第二條 發起人各自出資額
第三條 資本金使用ノ概算

第四條 設立ヲ要スル事由
第五條 賣買取引スヘキ物件ノ其地區内ニ於ケル集散ノ沿革及現況
第六條 其地區内ニ於テ會員又ハ仲買人タルコトヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品

毎ニ區別スヘシ

第二條 株式會社組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記
載シタル發起認可申請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ
之ヲ農商務大臣ヨリ差出スヘシ

- 一 前條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項
- 二 發起人各自ノ引受クヘキ株式ノ數
- 三 其地區内ニ於テ仲買人タルコトヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別
スヘシ

第三條 農商務大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ隨時之ヲ告示スヘシ
第四條 發起人ハ賣買取引スヘキ物件ノ種類毎ニ一箇年以上其種類ノ商業ニ從
事シタル商人三十人以上タルヘシ(二十五年農商務省令第十三號ヲ以テ改
正)

第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
取引所法施行規則

- 一 取引所ノ地區
- 二 賣買取引スヘキ物件
- 三 役員ノ選舉及其職務ニ關スル事項
- 四 會議ニ關スル事項
- 五 手数料及仲買人ノ口錢ニ關スル事項
- 六 仲買人ノ業務組合及規約ニ關スル事項
- 七 仲買人ノ身元保證金及使用人ニ關スル事項
- 八 仲買人ノ入退ニ關スル事項
- 九 市場ノ開閉及休業ニ關スル事項
- 十 賣買ノ受渡及證據金ニ關スル事項
- 十一 倉庫ニ關スル事項
- 十二 公定相場ニ關スル事項
- 十三 取引所ノ帳簿、記録及仲買人ノ帳簿ニ關スル事項

- 十四 取引所ノ出納及決算ニ關スル事項
 - 十五 金錢及有價證券ノ保管ニ關スル事項
 - 十六 仲裁ニ關スル事項
 - 十七 違約處分ニ關スル事項
 - 十八 定款ノ變更及解散ニ關スル事項
- 第六條 會員組織ノ取引所ノ定款ニハ前條ニ掲ケタル事項以外左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 取引所ノ名稱及所在地
 - 二 會員ノ出資及身元保證金ニ關スル事項
 - 三 會員ノ入退ニ關スル事項
- 第七條 會員組織ノ取引所ノ發起人發起ノ認可ヲ得タルトキハ少ナクトモ十四日間左ノ事項ヲ公告シテ會員ヲ募集スヘシ
- 一 發起認可シ年月日
- 取引所法施行規則

- 二 取引所ノ組織及名稱及所在地
 - 三 取引所ノ地區
 - 四 賣買取引スヘキ物件
 - 五 資本金及發起人各自ノ出資額
 - 六 各申込人ニ定款ヲ展限セシムヘキ事
 - 七 發起人ノ氏名
- 第七條ノ二 會員組織ノ取引所ハ賣買取引スヘキ物件ノ種類毎ニ五十人以上ノ會員アリテ非シレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス（三十五年農商務省令第十三號ヲ以テ追加）
- 第八條 發起人會員ノ募集ヲ終ハリタルトキハ創立總會ヲ開クヘシ此總會ニ於テハ總會員ノ半数以上ノ承諾ヲ以テ定款ヲ確定シ且役員ヲ選舉ス
役員ハ設立免許申請書ニ定款、會員申込簿及申込人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 第九條 株式會社組織ノ取引所ノ發起人株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ總役員ハ商法第二百二十四條ニ定メタル調査終了ノ後設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 一 定款
 - 二 發起人各自ノ引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面
 - 三 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本
 - 四 役員ノ選舉ニ關スル書類
- 第十條 發起ノ認可ヲ得タル後一年以内ニ設立免許ノ申請ヲ爲ササルトキハ認可ハ其效力ヲ失フ
- 第十一條 發起人株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ總役員ハ創立總會終結ノ後設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 一 定款
- 取引所法施行規則

二 各株主ノ株式申込證ノ謄本及株主名簿

三 商法第三百二十四條ノ規定ニ從ヒテ役員又ハ検査役カ爲シタル調査報告書及其附屬書類

四 創立總會ノ決議錄

第十二條 役員認可申請書ニハ其役員ノ履歷書ヲ添へ設立免許申請書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第十三條 發起認可申請書及設立免許申請書ニハ地方長官其意見書ヲ添附スヘシ

第十四條 開業ノ日ヲ定メタルトキハ役員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ
(三十五年農商務省令第十三號ヲ以テ第二項削除)

第十五條 取引所設立ノ免許ヲ得タル後一年以内ニ開業セサルトキハ免許ハ其效力ヲ失フ

第十五條ノ二 取引所ニシテ繼續ノ出願ヲ爲サムトスルモノハ願書ニ定款ヲ添

附シ免許年限満了前一箇年以内ニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ免許年限満了ノ日ヨリ三箇月前ニ其手續ヲ爲サトルモノハ出願ヲ受理セス (三十五年

農商務省令第十三號ヲ以テ追加)

第十六條 仲買人ノ免許ヲ得ンテ欲スル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添へ取引所ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十七條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ免許狀ヲ取引所ニ送付ス

第十八條 取引所ハ前項ノ免許狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ本人ニ通知シ免許料金額ニ相當スル収入印紙ヲ貼用シタル請書及身元保證金ヲ差出サシメタル後之

ヲ交付スヘシ

前項ノ請書ハ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十八條ノ仲買人前條第二項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ請書又ハ身

取引所法施行規則

元保證金ヲ差出ササルトキハ免許ハ其效力ヲ失フ
第十九條 仲買人廢業シタルトキハ届書ニ免許狀ヲ添附シテ之ヲ農商務大臣ニ
差出スヘシ

第二十條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ具シテ免許狀ヲ再下付テ
申請スヘシ
仲買人氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ノ書換テ申請スヘシ

第二十條ノ二 取引所ハ會員及仲買人ノ帳簿ノ種類、記載事項及様式ヲ定メ農
商務大臣ニ届出ツヘシ(三十五年農商務省令第十三號ヲ以テ追加)

第二十條ノ三 取引所ニ於テ會員及仲買人身元保證金ノ代用有價證券ノ種類及
價格ヲ指定シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ(同上)

第二十條ノ四 取引所ハ其所有及諸預リノ金錢及有價證券ノ保管方法ヲ定メ農
商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ(同上)

第二十條ノ五 取引所ニ於テ米ノ格付ヲ定ムル場合ニ於テハ一種又ハ一種以上

ノ標準物ヲ定メ格付表ヲ調製シ認可ヲ申請スヘシ(同上)

取引所ハ標準物ニ相當スル見本ヲ備ヘ置クヘシ

第二十一條ノ六 取引所ニ於テ轉賣買戻相殺ノ方法ヲ用井ントスルトキハ賣買者
ノ届出ニ依リ帳簿ニ記載シ之カ相殺ヲ爲シテ其契約ヲ終了スルノ手續ヲ定メ
之ヲ定款中ニ規定スヘシ(同上)

第二十二條ノ七 取引所ハ其市場ニ於テ賣買取引スル物件ノ公定相場ヲ公示スヘ
シ(同上)

公定相場ハ市場ニ於ケル取引價格ニシテ適當ト認メタルモノニ依リ取引所ノ
理事長理事之ヲ定ム其決定ノ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二十三條 取引所又ハ其役員訴訟ノ當事者トナリタルトキハ其訴訟ノ要旨及
其年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ訴訟終了シタルトキ亦同シ

第二十四條 株式會社組織ノ取引所商法ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ
登記シタル事項及其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

取引所法施行規則

第二十三條 取引所ハ左ノ報告書類ヲ調製シ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 毎日公定相場表

二 毎月實質高表

三 毎月商品ノ集散及商況ニ關スル報告書

以上翌月十五日限リ發送

四 收支豫算表

以上議定後十五日限リ發送

五 毎半期財産目錄

六 毎半期貸借對照表

七 毎半期損益計算表

八 毎半期事業報告書

九 毎半期末日現在會員、株主及仲買人並其使用人ノ氏名表

以上決算期後二十日限リ發送

第二十四條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ別段ノ規定アルモノノ

外地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官前項ノ書類ニ付キ意見アルトキハ之ニ其意見書ヲ添附スヘシ

第二十五條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ取引所ヲ經由スヘシ

附則

第二十六條 本令施行前ニ發起ノ認可アリタルモノニ付テハ第十條ノ期間ハ本

令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附則 (明治三十五年農商務省令第十三號)

第一條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 第二十三條ノ二ノ届出ハ明治三十五年九月三十日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 第二十三條ノ四ノ認可ハ明治三十五年九月三十日迄ニ之ヲ申請スヘシ

第四條 第二十三條ノ二乃至四ニ規定スル事項ニ關シ本令施行前ニ届出ヲ爲シ又

認可ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ届出ヲ爲シ又ハ認可ヲ受ケタルモノト見

取引所法施行規則

●取引所所定ノ米ノ格付並株式會社組織ノ取引所

定款中續用認可ノ件 (明治三十五年六月五日) (農商務省令第十一號)

第一條 取引所ニ於テ定メタル米ノ格付ニシテ本令發布前農商務大臣ニ届出アリタルモノハ更ニ格付ヲ定ムルマテハ明治三十五年七月一日以後ニ於テモ尙之ヲ續用スルコトヲ認可ス

第二條 株式會社組織ノ取引所ニシテ本令發布前定款ノ定ムル所ニ依リ明治二十六年勅令第七十四號第十三條第一項第四號ノ方法ヲ用ユルモノハ其定款中之ニ關スル規定ヲ變更スルマテハ明治三十五年七月一日以後ニ於テモ尙之ヲ續用スルコトヲ認可ス

●米、有價證券取引市場設立ニ關スル件

(明治二十九年三月二十一日) (農商務省令第一號)

米又ハ有價證券ヲ取引スル市場ハ爾今地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クルニアラザレバ設立スルコトヲ得ズ犯ス者ハ拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若シテ六廿一日以上二十五日以内ノ重禁錮ニ處ス

●取引所設立發起認可申請ニ關スル件

(明治二十七年二月二日) (農商務省訓令第七號)

取引所設立發起ノ認可ヲ申請スルモノアルトキハ左ノ各項ニ對スル意見ヲ添申シテ其申請書ヲ進送スヘシ

- 一 該地ニ於ケル其物件ノ集散ノ數量及ヒ集散ノ狀況果テ取引所ヲ設立シ之亦價格ヲ公定スルノ必要アルヤ否
- 二 取引所所定ノ米ノ格付並株式會社組織ノ取引所定 二百六十九
- 款中續用認可ノ件 米、有價證券取引市場設立ニ關スル件 取引所設立發起認可申請ニ關スル件

二 該地ニ近接セル取引所ノ作用ニ依リ其物件ノ需要供給ノ關係ヲ圓滑ナラシムルニ足ラサルヤ否

三 該地ニ取引所ヲ設立スルモ將來能ク之ヲ保續シ得ヘキヤ否

●取引所資本金、營業保證金、株式、手数料、積立金
及賣買取引ノ方法ニ關スル規程、仲買人免許料

(明治二十六年七月二十一日)
勅令第七十四號

朕取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料、積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程並仲買人免許料金額ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 株式會社組織ノ取引所ノ資本金ハ十萬圓以上トス(三十五年勅令第五百五十八號ヲ以テ本項中改正)

農商務大臣ハ賣買取引ノ狀況ニ因リ必要ト認ムルトキハ資本金額ヲ増加セシムルコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ハ資本金ノ半額以上ニシテ少ナクトモ十萬圓ノ拂込ヲ終リタル後ニ非サレハ業務ヲ行フコトヲ得ス(同上ヲ以テ本項追加)

第二條 會員組織ノ取引所ノ創設及維持ノ資本金ハ其會員ノ贖金ヲ以テ之ニ充ツヘシ解散ノ場合ニ於テ存留スル資本及其他ノ財産ハ一切ノ義務ヲ解除シタル後ニ於テ現時ノ各會員ニ平分スヘシ

第三條 取引所ニシテ倉庫ヲ設置スルトキハ其倉庫ニ關スル資本金ハ第一條及第二條ノ資本金以外ニ之ヲ増加スヘシ

第四條 株式會社組織ノ取引所ノ營業保證金額ハ其資本金額ノ三分ノ二トス但倉庫ノ爲メ増加シタル資本金ハ之ヲ算入セス

營業保證金ハ營業開始前大藏省預金局預金ノ證書若クハ國債地方債證券ヲ以テ其金額ヲ地方廳ニ納ムヘシ但國債地方債證券ヲ以テ納入スル場合ニ於テハ其價格ハ農商務大臣ノ指定スル所ニ依ルヘシ

資本金増額ノ場合ニ於テ増納スヘキ營業保證金ハ農商務大臣ノ指定スル日限取引所資本金、營業保證金、株式、手数料、積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程、仲買人免許料

第三其手續ヲ爲スヘシ

第五條 取引所ノ資本金ノ各株式ハ其株金ノ半額以上拂込前ニ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ利益ヲ會員ニ分配スル目的ヲ以テ手数料ヲ徵收スルコトヲ得ス

第七條 取引所ニ於テ賣買雙方ヨリ徵收スル手数料ハ取引所ノ組織、賣買ノ物件、賣買ノ方法及賣買ノ狀況ニ應シ賣買約定代金ノ千分ノ八ヲ超過スルコトヲ得ス

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ定限以内ニ於テ取引所ノ手数料ノ率ヲ改定セシムルコトヲ得

第七條ノ二 株式會社組織ノ取引所ニ於テ株主ニ配當スルキ利益カ拂込金額ニ對シ年一割ヲ超ユルトキハ二割ニ當ル金額ヲ控除シタル殘額ノ二分ノ一ヲ賠償責任ノ準備トシテ積立ツヘシ (二十五年勅令第五百十八號ヲ以テ本條追

加)

前項ノ積立金額資本金額ニ達シタルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其積立ヲ停止ス若クハ其積立金額ノ率ヲ減少スルコトヲ得

第八條 會員組織ノ取引所ハ毎年其總收入金ノ二十分ノ一ニ相當スル金額ヲ準備ノ積立金トシテ積置クヘシ但準備ノ積立金額資本金額ノ四分ノ一以上ニ達セザル時ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其積立ヲ停止シ若クハ其積立金額ノ率ヲ減少スルコトヲ得

第九條 取引所ノ準備ノ積立金ハ支出セシムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ

第十條 取引所ノ會員及仲買人ノ身元保證金ヲ供託シ其積立金ハ五年勅令

第十一條 取引所ノ毎日一定ノ時間ニ於テ直接取引、延取引及定期取引並ニ市場開

第十二條 取引所ノ但定款ヲ以テ定例及臨時休業ヲ爲シ及場合ヲ規定スル事ヲ得

取引所資本金、營業保證金、株式、手数料、積立金及 二百七十三
賣買引ノ方法ニ關スル規程、仲買人免許料

●商業會議所法

(明治三十五年三月二十四日) 法律第三十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商業會議所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商業會議所法

- 第一條 商業會議所ハ法人トス
- 第二條 商業會議所ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ市山市町村又ハ町下町村ヲ合シテ一地區ト爲スコトヲ得
- 第三條 商業會議所ヲ設立セムル所トシキハ職員ノ被選舉權ヲ有スル者三十人以上發起人ト爲リ發起ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ
- 第四條 發起人前條ノ認可ヲ受ケタル所キハ定款ヲ作り職員ノ選舉權ヲ有スル者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ
- 第五條 商業會議所ハ設立ノ認可ヲ受ケタル日ニ於テ成立ス

第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱、地區及所在地
- 二 議員ノ定數及其ノ選舉ニ關スル規定
- 三 役員ノ權限、選任及解任ニ關スル規定
- 四 會議ニ關スル規定
- 五 仲裁ニ關スル規定
- 六 庶務ニ關スル規定
- 七 會計ニ關スル規定
- 八 營造物ヲ設立シ又ハ管理スルトシキ其ノ管理ニ關スル規定

第七條 商業會議所ノ事務權限左ノ如シ

- 一 商工業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル方案ヲ調査スル事
- 二 商工業ニ關スル法規ノ制定、改廢、施行ニ關シ意見ヲ行政廳ニ開申シ及
- 三 商工業ノ利害ニ關スル意見ヲ表示スル事